

第2章 水質汚濁

第1節 水質汚濁に係る環境目標

公共用水域の水質汚濁に係る環境上の目標として、国においては人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持することが望ましい基準として環境基準（昭和46年環境庁告示第59号）が設定されている。

水質汚濁に係る人の健康の保護に関する環境基準は、公共用水域についてシアン、アルキル水銀、有機リン、カドミウム、鉛、クロム（6価）、ヒ素、総水銀及びPCBの9項目に関して一律に定められており、生活環境の保全に関する環境基準は、河川、湖沼及び海域ごとに利水目的等に応じた水域類型を設け、それに応じて生物化学的酸素要求量（BOD）、化学的酸素要求量（COD）、溶存酸素量（DO）等の基準値を設定し、それぞれの公共用水域について水域類型を指定することにより当該公共用水域の環境基準を具体的に示すこととなっている。

府域においては昭和50年度末までに淀川水域を始めとする5水域20河川並びに大阪湾については国が、泉州諸河川の20河川、淀川の支川等4水域13河川については府が、それぞれ水域類型の指定を行っている。

環境管理計画では、国の環境基準のほか、上水道源を保全し、都市河川においても魚が住めるようにするとともに、漁場を回復・確保するため必要な環境上の目標を定めている（表2-2-1～3及び図2-2-1）。

表2-2-1 水質汚濁に係る環境基準及び環境管理計画の目標

(1) 人の健康の保護に関する環境基準

項目	シアン	アルキル水銀	有機リン	カドミウム	鉛	クロム（6価）	ヒ素	総水銀	PCB
基準値	検出されないと	検出されないと	検出されないと	0.01ppm以下	0.1ppm以下	0.05ppm以下	0.05ppm以下	0.0005ppm以下	検出されないと
対象水域	全 公 共 用 水 域								
達成期限	直ちに達成し、維持するように努める。								

- (注) 1 基準値は最高値とする。ただし、総水銀に係る基準値については年間平均値とする。
 2 有機リンとは、パラチオン、メチルパラチオン、メチルジメトン及びE P Nをいう。
 3 「検出されないこと」とは、定量限界を下回することをいう(以下生活環境の保全に関する環境基準の項目において同じ。)
 4 総水銀に係る基準値は、河川においてその汚染が自然的原因によることが明らかである場合に限り、0.001ppm以下とする。

(2) 生活環境の保全に関する環境基準

ア 河 川

項目	類型	AA	A	B	C	D	E
利用目的の適応性		水道1級 自然環境保全 及びA以下の 欄に掲げるもの	水道2級 水産1級 水浴及びB以 下の欄に掲げ るもの	水道3級 水産2級 及びC以下の 欄に掲げるもの	水産3級 工業用水1級 及びD以下の 欄に掲げるもの	工業用水2級 農業用水 及びEの欄に 掲げるもの	工業用水3級 環境保全
水素イオン濃度 (pH)		6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下	6.0以上 8.5以下	6.0以上 8.5以下
生物化学的酸素要求量 (BOD)		1 ppm以下	2 ppm以下	3 ppm以下	5 ppm以下	8 ppm以下	10ppm以下
浮遊物質量 (SS)		25ppm以下	25ppm以下	25ppm以下	50ppm以下	100 ppm以下	ごみ等の浮遊 が認められない こと
溶存酸素量 (DO)		7.5 ppm以上	7.5 ppm以上	5 ppm以上	5 ppm以上	2 ppm以上	2 ppm以上
大腸菌群数		50MPN/100ml 以下	1000MPN/100ml 以下	5000MPN/100ml 以下	—	—	—
環境管理計画の目標と対象水域等		対象水域及びその水域が該当する水域類型並びに達成期限は、表2-2-3のとおりとする。 ただし、具体的計画の策定、実施に当たっては、昭和60年を目途に以下の目標値を達成しうよう配慮するものとする。 1 上水道水源の河川は、すべてB類型以上とする。 2 上水道水源の河川を除くその他の河川は、すべてC類型以上とする。					

- (注) 1 基準値は、日間平均値とする (海域もこれに準ずる)。
 2 農業用利水点については、水素イオン濃度6.0以上7.5以下、溶存酸素量5 ppm以上とする。
 3 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 4 水道1級：ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2級：沈でろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 水道3級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの

- 5 水産1級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
水産2級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
水産3級：コイ、フナ等β-中腐水性水域の水産生物用
- 6 工業用水1級：沈でん等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水2級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
工業用水3級：特殊の浄水操作を行うもの
- 7 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ 海 域

項目	類型	A	B	C	環境管理計画の目標と対象水域等
	利用目的の適応性	水産1級浴 自然環境保全 及びB以下の欄 に掲げるもの	水産2級 工業用水 及びCの欄に掲 げるもの	環境保全	
水素イオン濃度 (pH)		7.8以上 8.3以下	7.8以上 8.3以下	7.0以上 8.3以下	対象水域及びその水域が該当する水域類型並びに達成期限は表2-2-3のとおりとする。 ただし、具体的計画の策定、実施に当たっては、昭和60年を目途に以下の目標値を達成しうよう配慮するものとする。 1 現在C類型に該当する水域は、B類型にする。 2 現在B類型に該当する水域は、A類型にする。
化学的酸素 要求量(COD)		2 ppm以下	3 ppm以下	8 ppm以下	
溶存酸素量 (DO)		7.5 ppm以上	5 ppm以上	2 ppm以上	
大腸菌群数		1,000 MPN/100ml 以下	—	—	
ノルマルヘキサン 抽出物質(油分等)		検出され ないこと	検出され ないこと	—	

- (注) 1 水産1級のうち、生食用原料カキの養殖の利水点については、大腸菌群数70 MPN/100 ml以下とする。
- 2 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 - 3 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用
水産2級：ボラ、ノリ等の水産生物用
 - 4 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

表2-2-2 環境管理計画において設定した特殊項目の目標値

(1) 河 川

項目 \ 対象水域	上水道水源水域	その他の水域 (水域類型C以上の河川)	達成期限
フェノール類	0.005 ppm以下	0.01 ppm以下	上水道水源水域については、昭和56年度までに達成する。 その他の水域については環境基準類型のCが達成される年度とする。
銅	0.05 "	0.05 "	
亜鉛	0.1 "	0.1 "	
溶解性鉄	0.3 "	1.0 "	
溶解性マンガン	0.05 "	1.0 "	
全クロム	0.05 "	1.0 "	
弗素	0.8 "	1.5 "	
アンモニア性窒素	0.1 "	1.0 "	
陰イオン活性剤	0.5 "	0.5 "	
ノルマルヘキサン抽出物質	0.01 "	0.01 "	

(2) 海 域

項目 \ 対象海域	A 海域	B 海域	C 海域	達成期限
フェノール類	0.01 ppm以下	0.01 ppm以下	0.01 ppm以下	昭和56年度までに達成する。
銅	0.02 "	0.02 "	0.02 "	
亜鉛	0.1 "	0.1 "	0.1 "	
鉄	0.1 "	0.2 "	0.5 "	
全クロム	1.0 "	1.0 "	1.0 "	
陰イオン活性剤	0.1 "	0.1 "	0.1 "	
無機性窒素	0.1 "	0.2 "	0.3 "	
無機性リン	0.015 "	0.030 "	0.045 "	

表2-2-3 対象水域及びその水域が該当する水域類型並びに達成期限

(1) 河 川

水域類型指定日	環境基準における水域類型指定				環境管理計画による目標				
	水域	河 川	該当類型	達成期間	直ちに	昭和51年度までに	昭和56年度までに		
昭和45年9月1日	淀川水域	○淀川下流1) (宇治川合流点から長柄堰まで)	B	ハ	D	C	B		
		淀川下流2) (長柄堰より下流)	D	イ					
	大阪市内河川水域	大 川 (全城)	C	イ	C	BOD20ppm以下	E		
		堂 島 川 (〃)	D	イ	D				
		土 佐 堀 川 (〃)	E	ハ	E				
		安 治 川 (〃)	E	イ					
		道 頓 堀 川 (〃)	E	ハ					
		尻 無 川 (〃)	E	ロ	E			BOD15ppm以下	E
		木 津 川 (〃)	E	ハ	BOD20ppm以下			E	
		住 吉 川 (〃)	E	ハ	BOD20ppm以下			E	
		六 軒 家 川 (〃)	E	ハ	BOD20ppm以下			E	
	正 蓮 寺 川 (〃)	E	ロ	E	E				
	木津川運河 (〃)	E	ハ	BOD20ppm以下	E				
	寝屋川水域	寝 屋 川 (全城)	E	ハ	BOD25ppm以下	E			
		恩 智 川 (〃)	E	ハ	BOD25ppm以下	E			
	神崎川水域	○安威川上流 (茨木取水口より上流)	A	イ	A	C	B		
		○安威川下流1) (茨木取水口から戸伏まで)	B	ハ					
安威川下流2) (戸伏から大正川合流点まで)		D	ハ	E				D	
安威川下流3) (大正川合流点より下流)		E	ハ	BOD25ppm以下				E	
○猪名川上流 (箕面川合流点より上流)		B	ハ	C				B	
猪名川下流 (箕面川合流点より下流 (藻川を含む。))		E	ハ	BOD35ppm以下				E	
神 崎 川 (安威川、猪名川を除く神崎川)	E	ハ	BOD25ppm以下	E					
大和川水域	○大和川中流 (桜井市初瀬取水口から浅香山まで)	C	ハ	E	C				
	大和川下流 (浅香山より下流)	D	ハ	E	D				
	○石 川 (全城)	B	ハ	C	B				

水域 類型 指定 日	環境基準における水域類型指定				環境管理計画による目標			
	水 域	河 川	該 当 類 型	達 成 期 間	直 ち に	昭 和 5 1 年 度 ま で に	昭 和 5 6 年 度 ま で に	
昭 和 4 8 年 3 月 1 6 日	泉 州 諸 河 川 水 域	石津川 (全域)	E	ハ			E	
		○大津川上流 (泉大津市高津取水口より上流)	B	ハ		B		
		大津川下流 (泉大津市高津取水口より下流)	D	ハ				D
		○牛滝川 (全域)	B	ハ				B
		○松尾川 (")	B	ハ				B
		○横尾川 (")	B	ハ		B		
		○父鬼川 (")	A	ハ		A		
		○春木川 (")	E	ハ				E
		○春津田川 (")	E	ハ				E
		近木川上流 (稲谷川合流点より上流)	B	ハ		B		
		近木川下流 (稲谷川合流点より下流)	E	ハ				E
		見出川 (全域)	E	ハ				E
		佐野川 (")	E	ハ				E
		櫻井川上流 (兔田橋より上流)	B	ハ		B		
		櫻井川下流 (兔田橋より下流)	E	ハ				E
		○男里川 (全域)	A	ハ		A		
		○金熊寺川 (")	A	ハ		A		
		○菟砥川 (")	A	ハ		A		
		○山中川 (")	A	ハ		A		
		○番川 (")	A	ハ		A		
○大川 (")	A	ハ		A				
○東川 (")	A	ハ		A				
○西川 (")	A	ハ		A				
昭 和 5 0 年 1 0 月 8 日	淀 川 水 域	○芥川(1) (京都府界から塚脇橋まで)	A	イ				
		○芥川(2) (塚脇橋より下流)	B	ロ			B	
		○絵尾川 (全域)	B	ロ				
		○穂谷川 (")	B	ハ			B	
		○船橋川 (")	B	ハ			B	
	○天野川 (奈良県界より下流)	B	ハ			B		
	寝 屋 川 水 域	第二寝屋川 (全域)	E	ハ			E	
		平野川 (")	E	ハ			E	
	神 崎 川 水 域	○余野川 (全域)	B	イ			B	
		○箕面川(1) (箕面市取水口より上流)	A	イ				
○箕面川(2) (箕面市取水口から兵庫県界まで)		B	ロ			B		
○千里川 (全域)	C	ロ						
大 和 川 水 域	○東除川 (全域)	C	ハ			C		
	○西除川(1) (狭山池流出端より上流)	B	ハ			B		
	○西除川(2) (狭山池流出端より下流)	D	ハ			D		
○千早川 (全域)	B	ハ						

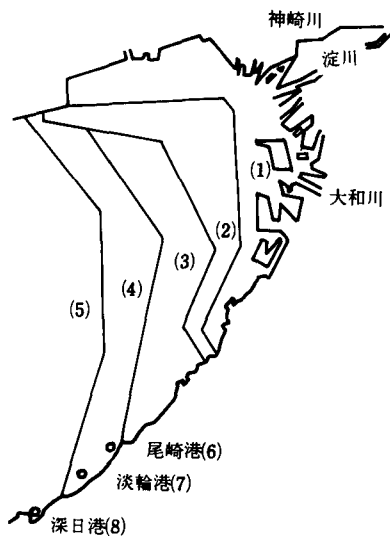
- (注) 1 ○印は上水道水源又は上水道水源の上流に位置する河川である。
2 達成期間の分類は次のとおりとする (以下 (2) の表について同じ。)
(1) 「イ」は直ちに達成
(2) 「ロ」は5年以内に可及的速やかに達成
(3) 「ハ」は5年を越える期間で可及的速やかに達成

(2) 海 域

水域 類型 指定 日	環境基準における水域類型指定				環境管理計画による目標		
	水 域	該当類型	達成期間	直ちに	昭和51年度までに	昭和56年度までに	
昭 和 46 年 12 月 28 日	大 阪 湾 (1)	C	イ	C			
	大 阪 湾 (2)	B	ロ		B		
	大 阪 湾 (3)	A	ハ		B	A	
	大 阪 湾 (4)	A	ロ		A		
	大 阪 湾 (5)	A	イ	A			
	尾 崎 港 (6)	C	イ	C			
	淡 輪 港 (7)	C	イ	C			
	深 日 港 (8)	C	イ	C			

(注) 尾崎港、淡輪港及び深日港の区域は、いずれも防波堤の先端を結ぶ線で囲まれた区域をいう。

図2-2-1 大阪湾水域の環境基準類型



第2節 河川水質の汚濁状況

昭和52年度における府城の河川水質調査は、公共用水域の測定計画に基づき79河川113地点について実施した。

調査結果からみると、人の健康の保護に関する項目（以下「健康項目」という。）については、カドミウムが2地点（内川放水路（古川橋）、内川（堅川橋））、鉛が1地点（内川放水路（古川橋））シアンが1地点（長瀬川（第二寝屋川合流直前））において環境基準を超えたが、総水銀、アルキル水銀、有機リン、クロム（6価）、ヒ素及びPCBの各物質については、すべての河川において環境基準を下回った。健康項目について環境基準を超えた検体数（m）の調査対象検体数（n）に対する割合（m/n）は表2-2-4に示すとおりである。

表2-2-4 河川の健康項目の環境基準を超えた割合

年 度	区 分	調査対象検体数(n)	環境基準を超えた検体数(m)	割合(m/n)
昭46		4,400	79	1.79 %
48		5,656	17	0.30
49		5,997	4	0.07
50		5,294	3*	0.06
51		5,567	1*	0.02
52		5,640	6*	0.11

(注) *印は総水銀を除く。

総水銀

年 度	区 分	調査対象検体数	0.0005 ppmを超えた検体数	環境基準を超えた地点数
昭50		752	8	0
51		910	8	0
52		946	7	0

(注) 総水銀についての環境基準の適否の判定は、年間の測定値が0.0005 ppmを超える検体数が調査対象検体数の37%以上である場合を不適とする（昭和49年12月23日付け環水管第182号環境庁水質保全局長通達）とされているため昭和50年度以降は別表に掲げた。

生活環境の保全に関する項目（以下「生活環境項目」という）のうち河川の代表的な汚濁指標とされている生物化学的酸素要求量（BOD）については、前年度に比して、全般的には横ばいないしやや悪化の傾向を示している。これを水域別にみると淀川、大和川、寝屋川の上流部及び泉州諸河川等は上昇しているが、神崎川、猪名川、安威川、大阪市内河川等はおおむね横ばいの状況を示している。また、類型別に環境基準値を超えた検体数（ m ）の調査対象検体数（ n ）に対する割合（ m/n ）でみると、E類型を除いた他の類型は、全般的に環境基準達成率が低下しているが、BOD汚濁負荷量では淀川、大和川について前年度とほぼ同程度の値であったことなどからみて、水質の悪化は主として、渇水の影響によるものと考えられる（表2-2-5）。

類型指定された河川水域別に環境基準又は環境管理計画に示す目標の達成状況をみると、昭和51年度までに達成すべき目標として示されている水質（BOD）の状況については、全42河川水域のうち目標の基準を達成しているのは26河川水域であり、昭和56年度の目標として示されている水質（BOD）の状況については、全40河川水域のうち10河川水域において目標を達成している（表2-2-6）。

また、環境管理計画に定められている特殊項目等についての河川の汚濁状況の調査結果は表2-2-16のとおりである。

表2-2-5 河川の生活環境項目の環境基準値を超えた割合 (BOD)

年度	昭 46			48			49			50			51			52		
	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 値を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %
A	12	4	33.3	56	22	39.3	64	25	39.1	64	21	32.8	74	26	35.1	144	55	38.2
B	144	76	52.8	168	131	78.0	168	71	42.3	168	58	34.5	236	135	57.2	364	234	64.3
C	36	22	61.1	48	38	79.2	48	35	72.9	48	32	66.7	56	42	75.0	73	60	82.2
D	48	12	25.0	60	26	43.3	60	15	25.0	60	11	18.3	64	20	31.3	72	32	44.4
E	288	180	62.5	328	209	63.7	328	150	45.7	328	140	42.7	356	150	42.1	440	185	42.0
合計	528	294	55.7	660	426	64.5	668	296	44.3	668	262	39.2	786	373	47.5	1093	566	51.8

(注) 昭和50年10月に環境基準を設定した河川については、昭和51年度から含めている。

表2-2-6 環境基準又は環境管理計画に示す目標の達成状況

水域	河川	測定地点	生物化学的 酸素要求量 〔BOD〕 (平均値)	昭和51年度の目標 の達成状況			昭和56年度の目標 の達成状況			
				基準	m/n値	適否	基準	m/n値	適否	
淀川	淀川下流(1)	枚方大橋	4.0	C	0/12	○	B	11/12	×	
		鳥飼大橋	3.3		0/12			9/12		
		国鉄赤川鉄橋	3.0		0/12			4/12		
淀川下流(2)	伝法大橋	5.2	D	4/12	×					
大 阪 市 内 河 川	大川	桜宮橋	2.3	C	0/12	○				
	堂島川	天神橋	4.0	D	0/12	○				
	土佐堀川	天神橋	7.3	20ppm	0/12	○	E	0/12	○	
	安治川	天保山渡	1.8	E	0/12	○				
	道頓堀川	大黒橋	6.5	15ppm	0/12	○	E	2/12	○	
	尻無川	福崎渡跡	3.3	E	0/12	○				
	木津川	千本松渡	8.5	20ppm	0/12	○	E	2/12	○	
	住吉川	住之江大橋	6.4	20ppm	0/12	○	E	0/12	○	
	六軒家川	春日出橋	3.7	20ppm	0/12	○	E	0/12	○	
	正蓮寺川	北港大橋	5.7	E	1/12	○				
	木津川運河	船町渡	3.3	20ppm	0/12	○	E	0/12	○	
寝 屋 川	寝屋川	萱島橋	9.8	25ppm	0/12	×	E	5/12	×	
		住道大橋	19		4/12			9/12		
		今津橋	15		1/12			9/12		
		京橋	11		0/12			5/12		
恩智川	大東新橋	23	25ppm	4/12	×	E	12/12	×		
神 崎 川	安威川上流	桑原橋	1.5	A	3/12	○				
	安威川下流(1)	千歳橋	2.3	C	0/12	○	B	2/12	○	
	安威川下流(2)	宮島橋	2.2	E	0/12	○	D	0/12	○	
	安威川下流(3)	新京阪橋	11	25ppm	0/12	○	E	4/12	×	
	猪名川上流	銀橋	4.3	C	3/12	○	B	7/12	×	
		軍行橋	3.9		2/12			8/12		
	猪名川下流	利倉橋	11	35ppm	1/12	○	E	4/12	×	
	神崎川	神崎川	新三国橋	6.2	25ppm	0/12	○	E	0/12	○
			辰己橋	7.0		0/12			2/12	
千船橋			5.0	0/12		0/12				
大 和 川	大和川中流	国豊橋	15	E	8/12	×	C	12/12	×	
		河内橋	11		7/12			12/12		
		浅香新取水口	21		12/12			12/12		
	大和川下流	遠里小野橋	21	E	12/12	×	D	12/12	×	
	石川	高橋	4.0	C	2/12	×	B	8/12	×	
石川橋	4.4	4/12	8/12							

水域	河川	測定地点	生物化学的 酸素要求量 〔BOD〕 (平均値)	昭和51年度の目標 の達成状況			昭和56年度の目標 の達成状況		
				基準	m/n値	適否	基準	m/n値	適否
泉 州 諸 河 川	石津川	石津川橋	16				E	9/12	×
	大津川上流	高津取水口	5.5	B	10/12	×			
	大津川下流	大津川橋	6.1				D	4/12	×
	牛滝川	高橋	6.5				B	9/12	×
	松尾川	新緑田橋	7.8				B	11/12	×
	楨尾川	繁和橋	10	B	10/12	×			
	父鬼川	神田橋	1.7	A	2/12	○			
	春木川	春木橋	21				E	10/12	×
	津田川	昭代橋	8.0				E	4/12	×
	近木川上流	厄除橋	2.6	B	6/12	×			
	近木川下流	近木川橋	21				E	6/12	×
	見出川	見出橋	16				E	8/12	×
	佐野川	昭平橋	16				E	7/12	×
	檜井川上流	兔田橋	3.0	B	4/12	×			
	檜井川下流	檜井大橋	23				E	10/12	×
	男里川 金熊寺川 菟砥川 山中川 番川 大川 東川 西川	男里川	男里川橋	4.1	A	10/12	×		
金熊寺川		男里橋	11	A	12/12	×			
菟砥川		西打合橋	2.4	A	7/12	×			
山中川		東打合橋	1.1	A	1/12	○			
番川		田身輪橋	1.1	A	1/12	○			
大川		昭南橋	2.8	A	4/12	×			
東川		一軒家橋	2.7	A	7/12	×			
西川		こうや橋	1.2	A	1/12	○			
淀 川	芥川(1)	塚脇橋	2.3	A	7/12	×			
	芥川(2)	淀川合流直前	5.1				B	11/12	×
	松尾川	淀川合流直前	7.4				B	3/3	×
	穂谷川	淀川合流直前	20				B	12/12	×
	船橋川	淀川合流直前	2.9				B	3/9	×
天野川	淀川合流直前	14				B	12/12	×	
寝屋川	第二寝屋川	新金吾郎橋	13				E	10/12	×
	平野川	城見橋	17				E	10/12	×
神 崎 川	余野川	猪名川合流直前	1.4	B	0/12	○			
	箕面川(1)	箕面市取水口	0.9	A	0/12	○			
	箕面川(2)	府県境	2.2				B	2/12	○
	千里川	猪名川合流直前	9.2				C	11/12	×

水域	河川	測定地点	生物化学的 酸素要求量 (BOD) (平均値)	昭和51年度の目標 の達成状況			昭和56年度の目標 の達成状況		
				基準	m/n値	適否	基準	m/n値	適否
大 和 川	東除川	大和川合流直前	26				C	12/12	×
	西除川(1)	狭山池流出端	6.2				B	9/12	×
	西除川(2)	大和川合流直前	82				D	12/12	×
	千早川	石川合流直前	2.8	B	2/12	○			

- (注) 1 昭和51年度目標のうちには、昭和51年度以前に達成すべき目標を含む。
2 目標の基準に対する適否の判定は、目標の基準値を超える検体数(m)の調査対象検体数(n)に対する割合(m/n)が25%以下であるものを適合(○)としている。

第1 淀川水域

1 水域の概要

淀川は、京都府八幡地点において、桂川、宇治川及び木津川を合して大阪府域へ流入し、その流域市町村は枚方市、交野市、四条畷市、高槻市及び島本町の4市1町で、京阪神地域の住民1,300万人の水源となっている代表的河川である。

府域における上流部では、左岸から船橋川、穂谷川、天野川、右岸から桧尾川及び芥川等の支川が流入し、また、中流から下流部にかけては、寝屋川、神崎川、大川及び正蓮寺川に対し浄化用水としてその豊富な水量の一部を供給している。

2 水質の状況

淀川本川の環境基準の河川類型は、長柄堰を境として、上流はB類型、下流はD類型であり、支川の船橋川、穂谷川、天野川、桧尾川及び芥川下流はいずれもB類型、芥川上流はA類型である（図2-2-2）。

淀川水域における健康項目については、すべての測定地点で環境基準を下回った。

生活環境項目のうち生物学的酸素要求量（BOD）についてみると、淀川本川については、渇水の影響を強く受け、国鉄赤川鉄橋を除き悪化しており、枚方大橋（平均値4.0ppm、m/n値11/12）、鳥飼大橋（平均値3.3ppm、m/n値9/12）国鉄赤川鉄橋（平均値3.0ppm、m/n値4/12）及び伝法大橋（平均値5.2ppm、m/n値4/12）の4地点とも環境基準を上回った。

なお、枚方大橋における水質、流量及び汚濁負荷量（水質×流量）を前年度と比較すると、水質測定時において平均流量で227.3m³/秒から173.7m³/秒と大幅に減少するとともに、BOD汚濁負荷量で61.1t³/日から54.6t³/日と減少しており、BOD値の上昇は主に渇水による流量の減少に起因しているものと考えられる（表2-2-7）。

支川についても穂谷川を始めとする5河川のいずれも環境基準を上回った。

なお、他の項目のうち水素イオン濃度（pH）については、船橋川、穂谷川、天野川で環境基準を超えた回数が多く、大腸菌群数は穂谷川で平均2.0×10⁷MPN/100mlと高い値を示した。

また、淀川右岸摂津市一津屋取水場の水質自動監視所における水質測定結果を

みると、全有機炭素(TOC)は昭和50年度以降ほぼ横ばいで推移し、濁度は昭和46年度以降毎年減少傾向を示している。一方、溶存酸素量及び電気伝導度は前年度に比して悪化しており、濁水であった昭和48年度と同様の傾向を示している(表2-2-8、表2-2-9及び図2-2-3)。

表2-2-7 淀川(枚方大橋)における水質、流量及び汚濁負荷量

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
水質 (BOD ppm)	昭51	3.8	3.9	2.7	4.0	3.0	1.9	3.5	3.2	4.2	3.2	2.2	2.7	3.2
	52	2.3	3.7	3.9	3.5	4.7	3.6	4.4	4.3	4.3	4.6	4.6	3.7	4.0
流量 (m^3 /秒)	51	221.0	207.2	385.6	222.4	288.8	265.7	239.3	134.2	137.4	164.6	167.0	294.2	227.3
	52	418.0	275.6	164.5	317.4	109.8	101.1	88.7	102.4	94.8	119.8	119.8	171.9	173.7
汚濁負荷量 (水質×流量) (BOD トン/日)	51	72.6	69.8	90.0	76.9	74.9	43.6	72.4	37.1	49.9	45.5	31.7	68.6	61.1
	52	83.1	88.1	55.4	96.0	44.6	31.4	33.7	38.0	35.2	47.6	47.6	55.0	54.6

(注) 1 昭和52年度の流量は推定流量であり、水質測定日の流量を使用している。

2 汚濁負荷量の平均値は、加重平均値を用いている。

図2-2-2 淀川水域の水質測定地点及びBOD経年変化

- (注) 1 ●は基準点(年12回測定)を示し、数字は測定地点番号を示す。
 2 棒グラフは主要測定地点(地点名記入)の昭和48年～52年度平均BOD値の経年変化を示す。

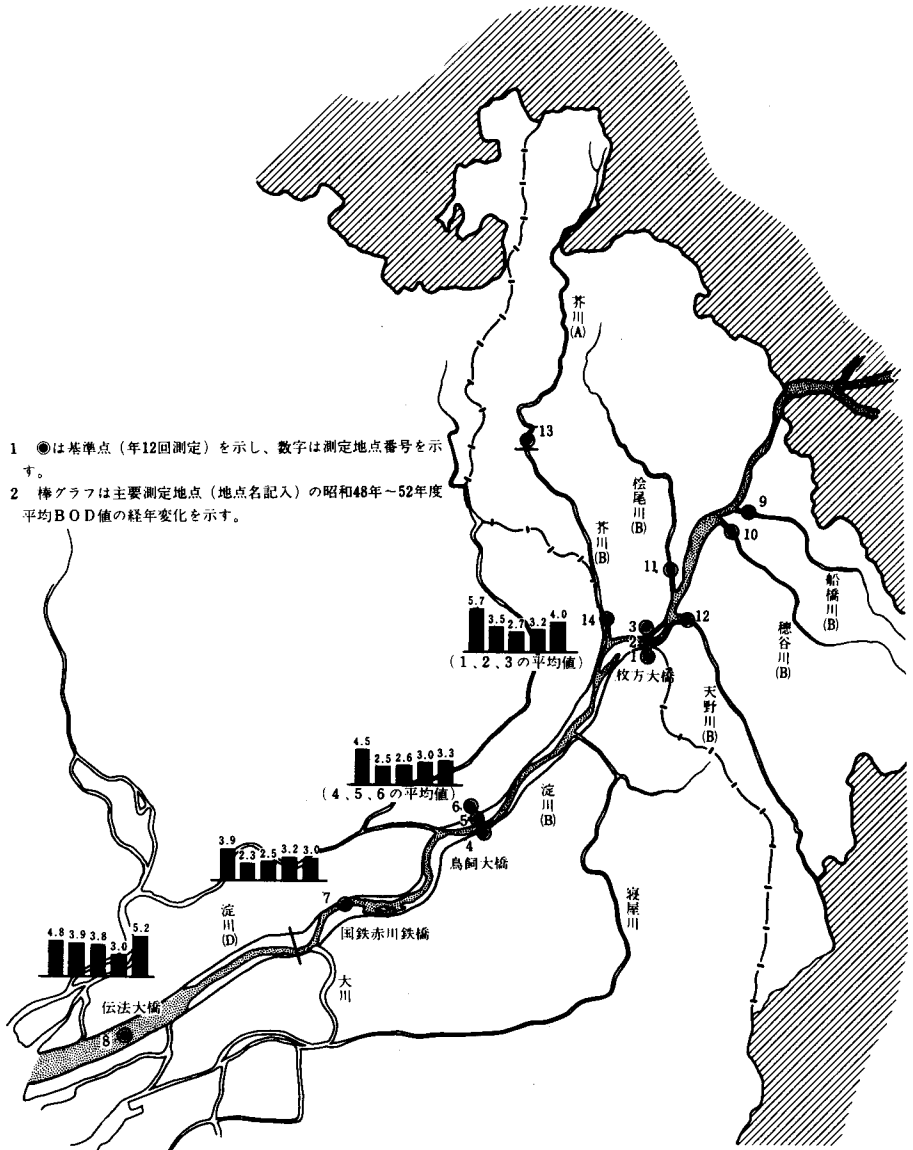


表2-2-8 一津屋水質自動監視所における測定結果 (昭和52年度)

項目	月	昭和52年度												昭和53年度		年度 平均値
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	日平均 最高値	最低値	
水温 (°C)		15.1	19.4	22.1	26.1	27.5	25.4	20.4	15.7	10.5	7.2	5.7	9.2	30.8	3.2	17.1
水素イオン濃度 [pH]		7.08	7.11	6.90	6.95	6.98	6.92	6.84	6.91	7.09	7.11	7.12	7.22	7.27	6.60	7.00
溶存酸素量 (ppm)		8.2	6.2	4.7	4.4	4.3	4.1	4.1	5.4	6.8	8.8	9.7	8.2	10.5	2.1	6.4
濁度 (ppm)		30	17	31	16	19	17	16	25	17	14	15	14	84	5	19
電気伝導度 (μS/cm)		186	207	225	192	216	223	232	206	191	154	162	152	259	102	195
シアンイオン (ppm)		ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
全有機炭素 (ppm)		1.9	2.0	2.5	2.2	2.4	2.5	2.6	2.4	2.6	1.8	2.2	2.2	3.5	1.1	2.3

(注) 各月の測定値は月平均値で、測定機の稼働率は89.9%である。

図2-2-3 一津屋水質自動監視所における濁度等の年度平均値の推移

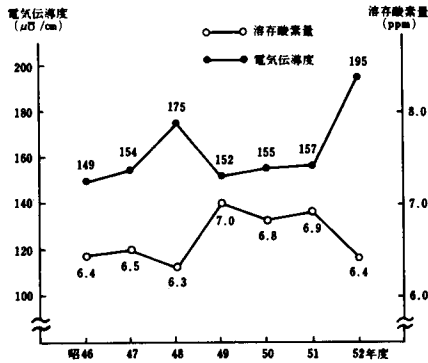
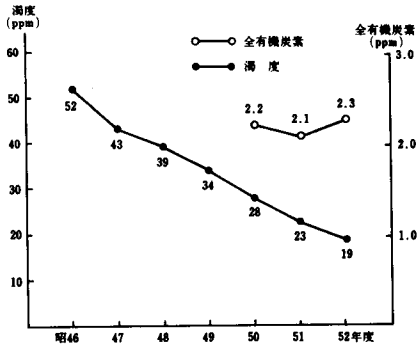


表2-2-9 淀川水域水質調査結果 (昭和52年度)

測定地点		環境基準 河川 類型	生活環境項目													
			水素イオン濃度 [pH]		生物化学的酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均		
1	淀川 枚方大橋左岸	B	7.0 ~ 7.9	2.3 ~ 5.6	3.8	4~45	17	6.0 ~11	8.6	4.9×10 ⁴ ~ 4.9×10 ⁵	1.5 × 10 ⁵	%				
2	淀川 枚方大橋流心		6.9 ~ 7.7	2.0 ~ 5.8	3.9	5~39	13	5.6 ~11	8.1	1.3×10 ⁴ ~ 7.9×10 ⁵	1.9 × 10 ⁵	%				
3	淀川 枚方大橋右岸		6.9 ~ 7.8	2.6 ~ 5.4	4.2	5~50	16	5.1 ~11	7.9	3.3×10 ⁴ ~ 7.9×10 ⁵	2.1 × 10 ⁵	%				
4	淀川 鳥飼大橋左岸		7.0 ~ 7.8	1.8 ~ 4.7	3.2	6~39	14	4.1 ~10	7.6	2.4×10 ⁴ ~ 7.9×10 ⁵	2.6 × 10 ⁵	%				
5	淀川 鳥飼大橋流心		7.0 ~ 7.8	1.7 ~ 5.1	3.2	5~45	14	4.6 ~ 9.8	7.5	1.3×10 ⁴ ~ 7.9×10 ⁵	2.8 × 10 ⁵	%				
6	淀川 鳥飼大橋右岸		6.9 ~ 7.9	2.8 ~ 4.8	3.5	5~25	12	4.6 ~ 9.5	7.4	2.4×10 ⁴ ~ 1.3×10 ⁶	3.3 × 10 ⁵	%				
7	淀川 国鉄赤川鉄橋		7.2 ~ 8.1	1.9 ~ 4.1	3.0	3~24	9	6.6 ~10	8.3	3.3×10 ³ ~ 1.3×10 ⁵	5.6 × 10 ⁴	%				
8	淀川 伝法大橋	D	7.0 ~ 8.5	1.5 ~10	5.2	5~39	19	4.8 ~11	8.5	—	—	—				
9	船橋川 淀川合流直前	B	6.2 ~10.0	2.0 ~ 5.3	2.9	2~87	14	8.1 ~13	10	0~ 1.6×10 ⁵	4.3 × 10 ⁴	%				
10	穂谷川 淀川合流直前	B	6.2 ~ 7.5	9.5 ~42	20	7~190	45	3.4 ~ 7.8	5.3	3.1×10 ⁵ ~ 1.6×10 ⁸	2.0 × 10 ⁷	%				
11	椋尾川 淀川合流直前	B	7.3 ~ 7.5	4.7 ~11	7.4	15~19	17	6.0 ~10	7.8	1.3×10 ⁴ ~ 7.0×10 ⁴	4.4 × 10 ⁴	%				
12	天野川 淀川合流直前	B	6.2 ~ 7.7	6.1 ~39	14	6~80	25	6.4 ~ 8.6	7.5	9.2×10 ⁴ ~ 5.4×10 ⁸	9.9 × 10 ⁸	%				
13	芥塚 臨橋	A	7.4 ~ 8.0	1.6 ~ 4.2	2.3	< 1~57	11	7.9 ~15	11	2.0×10 ⁴ ~ 1.7×10 ⁴	6.5 × 10 ³	%				
14	芥川 淀川合流直前	B	7.2 ~ 7.7	1.7 ~ 8.0	5.1	3~39	13	6.5 ~12	9.5	1.7×10 ³ ~ 7.9×10 ⁴	2.9 × 10 ⁴	%				

(注) 1 「ND」とは定量限界以下をいい、シアンは0.1ppm未満、有機リンは0.1ppm未満、PCBは0.0005ppm未満、アルキル水銀は0.0005ppm未満である(以下本節中の各表について同じ)。
 2 アルキル水銀については、原則として総水銀が0.0005ppmを超えた場合のみ測定を行っているが、いずれの地点でも定量限界以下であった(以下表2-2-10、11、12、14及び15について同じ)。

(単位：ppm)

化学的酸素 要求量 〔COD〕		健 康 項 目															
		シ ア ン 〔CN〕		有機リン 〔Or-P〕		カドミウム 〔Cd〕		鉛 〔Pb〕		クロム(6価) 〔Cr ⁶⁺ 〕		ヒ 素 〔As〕		総 水 銀 〔T-Hg〕		P C B	
最小~最大	平均	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n	最 大	m/n
2.4 ~ 7.4	5.7	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
2.6 ~ 9.6	6.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
3.0 ~ 8.4	6.6	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.9 ~ 8.9	6.2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.6 ~ 9.9	6.2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
3.2 ~ 8.7	6.4	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0.015	1/2	◇	◇
3.1 ~ 8.0	5.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	<0.0005	%	◇	◇
3.7 ~ 12	6.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
5.8 ~ 12	7.2	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
12 ~ 31	19	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
5.7 ~ 6.7	6.1	◇	%	—	—	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	—	—
9.7 ~ 32	15	◇	%	ND	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	ND	%
<0.5 ~ 3.5	1.8	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
4.1 ~ 9.5	7.1	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%

第2 神崎川水域

1 水域の概要

神崎川は摂津市の一律屋地点において淀川から分岐し、その途中、安威川及び兵庫県境を流れる猪名川を合して大阪湾へ流入している。

流域市町村は、大阪市、豊中市、吹田市、摂津市、池田市、箕面市、茨木市、高槻市、能勢町及び豊能町の8市2町に及んでおり、北摂地域の大部分を流域に有している。

2 水質の状況

猪名川は箕面川合流点より上流はB類型、下流はE類型であり、その支川では、余野川がB類型、箕面川は、箕面市取水口より上流がA類型、下流がB類型、千里川はC類型である。安威川は茨木取水口より上流がA類型、戸伏までB類型、大正川合流点までD類型、下流がE類型である。神崎川本川の環境基準はすべてE類型である（図2-2-4）。

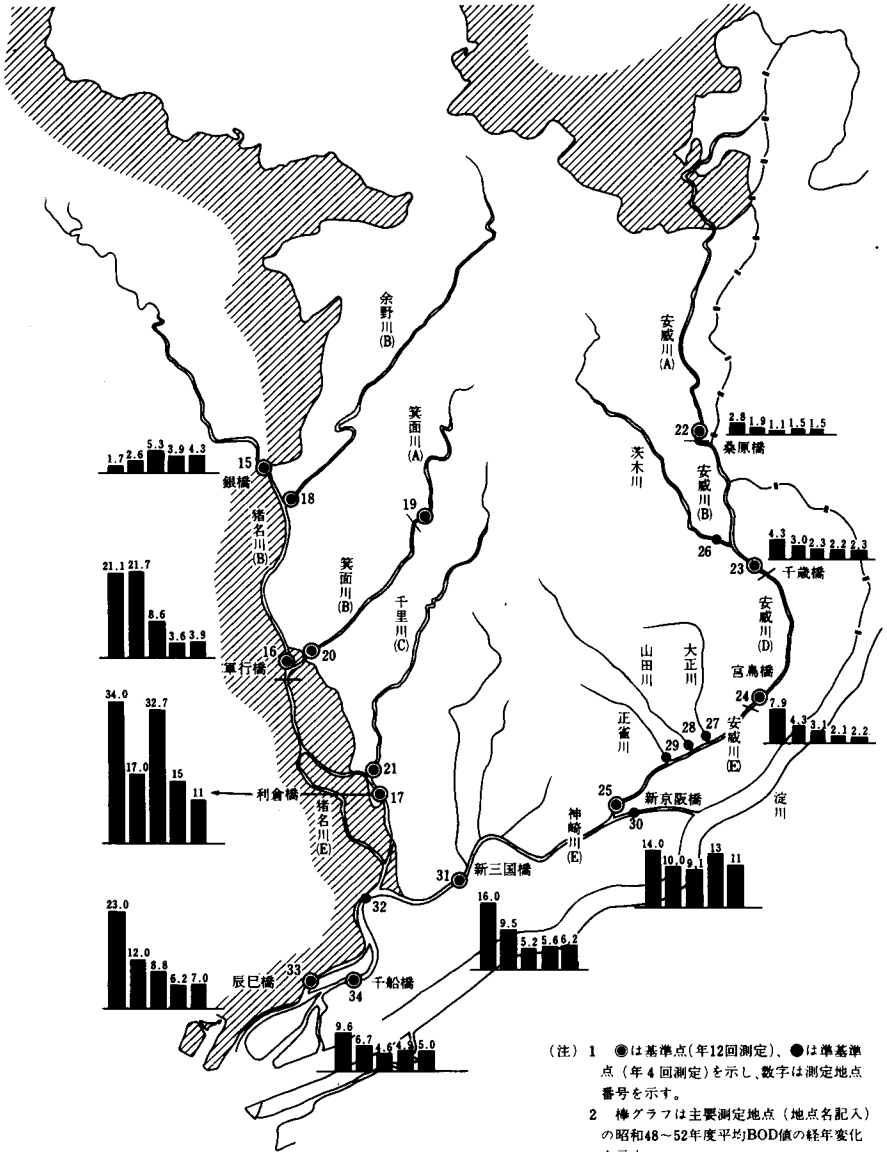
神崎川水域における健康項目については、すべての測定地点で環境基準を下回った。

BODについてみると、猪名川本川は、銀橋（平均値4.3ppm、m/n値7/12）、軍行橋（平均値3.9ppm、m/n値8/12）、利倉橋（平均値11ppm、m/n値4/12）の3地点とも環境基準を上回り、ほぼ前年度並みの水質であった。また、猪名川の支川は、千里川を除き余野川、箕面川とも環境基準を下回った。

安威川本川は、新京阪橋（平均値11ppm、m/n値4/12）を除き桑原橋（平均値1.5ppm、m/n値3/12）、千歳橋（平均値2.3ppm、m/n値2/12）、宮島橋（平均値2.2ppm、m/n値0/12）の3地点で環境基準を下回った。また、桑原橋から宮島橋にかけては、水素イオン濃度（pH）の高い傾向が見られた。

神崎川本川は、新三国橋（平均値6.2ppm、m/n値0/12）、辰巳橋（平均値7.0ppm、m/n値2/12）、千船橋（平均値5.0ppm、m/n値0/12）の3地点とも前年度と同様に環境基準を下回った（表2-2-10）。

図2-2-4 神崎川水域の水質測定地点及びBOD経年変化



(注) 1 ●は基準点(年12回測定)、●は準基準点(年4回測定)を示し、数字は測定地点番号を示す。
2 棒グラフは主要測定地点(地点名記入)の昭和48-52年度平均BOD値の経年変化を示す。

表2-2-10 神崎川水域水質調査結果 (昭和52年度)

測定地点	環境基準河川 類型	生活環境項目													
		水素イオン濃度 [pH]		生物化学的酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
		最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均		
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
15	猪名川橋	7.4 ~ 7.9	4.3	1.5 ~ 12	3.9	5~120	21	7.8 ~ 14	10	7.0×10 ³ ~ 7.0×10 ⁴	2.7 × 10 ⁴	%			
16	猪名川橋	7.3 ~ 9.0	3.9	2.1 ~ 6.9	3.7	6~29	13	7.0 ~ 12	9.7	4.9×10 ³ ~ 2.4×10 ⁵	3.7 × 10 ⁴	%			
17	猪名川橋	7.4 ~ 7.9	11	2.0 ~ 43	3.1	6~65	22	5.2 ~ 9.5	7.3	0~ 2.4×10 ⁴	3.1 × 10 ³	%			
18	余野川合流直前	6.5 ~ 8.5	1.4	<0.5 ~ 2.6	1.1	<1~10	4	6.7 ~ 14	10	1.1×10 ³ ~ 3.5×10 ⁴	1.1 × 10 ⁴	%			
19	箕面川取水口	6.4 ~ 8.2	0.9	<0.5 ~ 1.9	4.4	<1~24	7	8.5 ~ 14	10	3.3×10 ² ~ 7.9×10 ³	4.4 × 10 ³	%			
20	箕面川境	6.6 ~ 9.5	2.2	0.6 ~ 3.9	1.5	1~260	25	7.5 ~ 15	11	1.7×10 ³ ~ 5.4×10 ⁴	1.5 × 10 ⁴	%			
21	千里川合流直前	6.5 ~ 8.8	9.2	2.6 ~ 14	—	4~150	46	6.1 ~ 14	9.4	—	—	—			
22	安原川橋	6.5 ~ 9.8	1.5	<0.5 ~ 3.0	2.7	<1~52	15	7.9 ~ 12	9.8	1.7×10 ² ~ 9.2×10 ³	2.7 × 10 ³	%			
23	安原川橋	6.3 ~ 8.7	2.3	1.2 ~ 3.7	2.6	2~180	22	7.0 ~ 13	9.4	4.9×10 ³ ~ 5.4×10 ⁴	2.6 × 10 ⁴	%			
24	安原川橋	5.8 ~ 8.7	2.2	0.9 ~ 4.6	—	<1~39	12	7.4 ~ 15	10	—	—	—			
25	安原川橋	6.7 ~ 8.5	11	2.8 ~ 18	—	5~79	22	5.9 ~ 10	7.5	—	—	—			
26	茨木川合流直前	7.1 ~ 7.9	4.2	3.1 ~ 5.6	—	3~24	10	7.5 ~ 11	8.7	—	—	—			
27	大正川合流直前	6.5 ~ 7.5	16	8.2 ~ 22	—	17~54	39	4.0 ~ 7.4	6.1	—	—	—			
28	山田川合流直前	7.0 ~ 9.4	9.5	7.0 ~ 12	—	6~110	33	3.6 ~ 9.3	5.9	—	—	—			

(単位：ppm)

化学的酸素 要求量 〔COD〕	健康項目																
	シアン		有機リン		カドミウム		鉛		クロム(6価)		ヒ素		総水銀		P C B		
	〔CN〕		〔Or-P〕		〔Cd〕		〔Pb〕		〔Cr ⁶⁺ 〕		〔As〕		〔T-Hg〕				
最小~最大	平均	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n	最大	mg/n
3.3 ~ 9.4	5.1	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
4.1 ~12	6.7	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
13 ~31	20	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.6 ~ 5.8	2.7	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
0.9 ~ 4.0	2.3	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
3.9 ~14	5.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
8.4 ~22	13	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.0 ~20	4.9	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂	◇	% ₁₂
2.5 ~ 6.6	5.0	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.8 ~ 8.6	5.2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
7.4 ~23	13	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
6.2 ~ 7.6	6.7	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄	◇	% ₄
12 ~23	18	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
14 ~16	15	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

測定地点		環境 基準 河川 類型	生 活 環 境 項 目														
			水素イオン 濃度 [pH]			生物化学的 酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%
29	正雀川 安威川合流直前	E	7.0 ~ 7.4	24	%	16 ~ 36	7.2	%	11~57	31	%	3.3 ~ 6.5	5.3	%	—	—	—
30	神崎川 小松橋		6.7 ~ 7.4	7.2	%	3.8 ~ 10	7.2	%	8~32	17	%	3.7 ~ 7.7	5.8	%	—	—	—
31	神崎川 新三国橋		6.7 ~ 7.5	6.2	%	3.4 ~ 8.0	6.2	%	3~17	10	%	2.5 ~ 6.0	4.3	%	—	—	—
32	神崎川 神崎橋		6.7 ~ 7.4	5.6	%	3.5 ~ 7.3	5.6	%	6~10	9	%	3.3 ~ 5.9	4.7	%	—	—	—
33	神崎川 辰巳橋		6.7 ~ 7.3	7.0	%	2.5 ~ 13	7.0	%	4~32	12	%	2.8 ~ 7.9	4.7	%	—	—	—
34	神崎川 千船橋		6.7 ~ 7.4	5.0	%	3.1 ~ 8.3	5.0	%	4~21	8	%	2.3 ~ 6.8	4.0	%	—	—	—

(単位：ppm)

化学的酸素 要求量 [COD]		健康項目															
		シアン [CN]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
最小~最大	平均	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n
22 ~61	36	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
5.9 ~11	9.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
7.4 ~15	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
9.3 ~14	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
7.9 ~14	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
6.3 ~13	9.0	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

第3 寝屋川水域

1 水域の概要

大阪の東部に源を発する寝屋川は、途中、寝屋川市木屋地点で淀川から浄化用水の導入を受け、更に恩智川及び第二寝屋川を合して大阪市内河川に流入している。

流域市町村は、大阪市、守口市、門真市、寝屋川市、枚方市、大東市、交野市、四条畷市、東大阪市、八尾市、柏原市及び藤井寺市の12市に及んでいる。

2 水質の状況

寝屋川本川及び支川の恩智川、第二寝屋川及び平野川の水質環境基準の河川類型は、すべてE類型である（図2-2-5）。

寝屋川水域における健康項目については、長瀬川（第二寝屋川合流直前）でシアン0.1ppmが検出された。この原因については明確には握できなかったが、引き続き流域の工場に対し、強力に指導を行っている。

BODについては、淀川からの浄化用水が渇水期に停止したため、前年度まで環境基準を下回っていた萱島橋（平均値9.8ppm、m/n値5/12）を含め、住道大橋（平均値19ppm、m/n値9/12）、今津橋（平均値15ppm、m/n値9/12）、京橋（平均値11ppm、m/n値5/12）の4地点とも環境基準を上回った。

恩智川の水質は、前年度に比して若干改善されているものの大東新橋（BOD23ppm、溶存酸素量1.7ppm、浮遊物質質量95ppm）では、なお著しい汚濁を示している。

また、支川の平野川、第二寝屋川とも前年度に比して改善されているが、依然として環境基準を上回っている（表2-2-11）。

図2-2-5 寝屋川水域の水質測定地点及びBOD経年変化

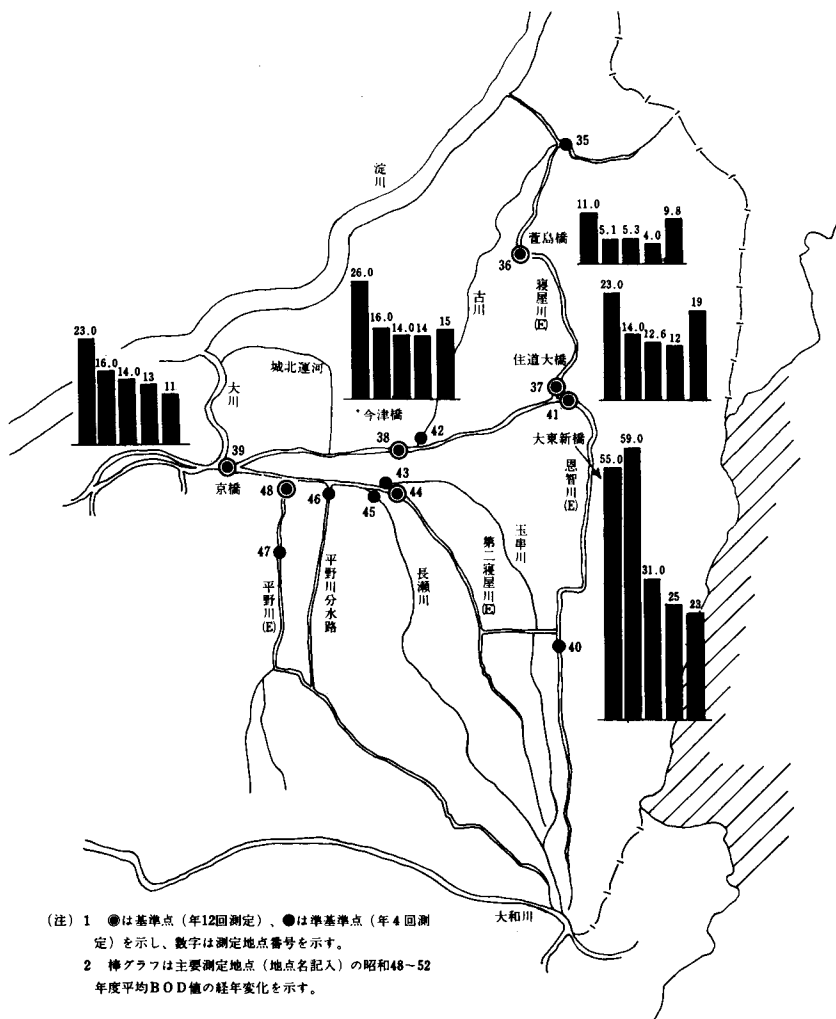


表2-2-11 寝屋川水域水質調査結果 (昭和52年度)

測定地点		環境 基準 河川 類型	生活環境項目																
			水素イオン濃度 (pH)			生物化学的酸素要求量 (BOD)			浮遊物質量 (SS)			溶存酸素量 (DO)			大腸菌群数 (Coli-G) (MPN/100ml)				
			最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%		
			最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均	最小	最大	平均		
35	寝屋川 清水橋	E	6.5 ~ 7.8	7.8	7.15	%	11 ~ 49	30	25	%	7~14	11	%	2.4 ~ 5.9	4.3	%	-	-	-
36	寝屋川 萱島橋		6.3 ~ 7.7	7.7	7.0	%	2.1 ~ 20	9.8	%	5~35	12	%	3.1 ~ 9.6	5.6	%	-	-	-	
37	寝屋川 住道大橋		6.3 ~ 7.5	7.5	6.9	%	7.5 ~ 27	19	%	5~28	18	%	<0.5 ~ 7.7	2.1	%	-	-	-	
38	寝屋川 今津橋		6.3 ~ 7.3	7.3	6.8	%	3.9 ~ 27	15	%	16~41	24	%	<0.5 ~ 3.0	1.5	%	-	-	-	
39	寝屋川 京橋		6.5 ~ 7.4	7.4	6.95	%	6.4 ~ 24	11	%	9~55	20	%	1.5 ~ 10	6.0	%	-	-	-	
40	恩智川 福栄橋下流 100m	E	6.1 ~ 8.3	8.3	7.2	%	19 ~ 39	26	%	20~53	33	%	2.9 ~ 10	5.9	%	-	-	-	
41	恩智川 大東新橋		6.2 ~ 7.3	7.3	6.75	%	14 ~ 38	23	%	36~150	95	%	<0.5 ~ 5.1	1.7	%	-	-	-	
42	古徳川 栄橋	E	6.4 ~ 7.2	7.2	6.8	%	15 ~ 27	19	%	13~28	21	%	<0.5 ~ 1.8	1.0	%	-	-	-	
43	玉串川 第二寝屋川合流直前		5.9 ~ 7.7	7.7	6.8	%	27 ~ 96	52	%	9~40	23	%	<0.5 ~ 4.7	1.7	%	-	-	-	
44	第二寝屋川 新金吾郎橋		6.0 ~ 7.2	7.2	6.6	%	7.5 ~ 16	13	%	10~36	17	%	1.1 ~ 6.6	2.8	%	-	-	-	
45	長瀬川 第二寝屋川合流直前	E	6.3 ~ 7.3	7.3	6.8	%	15 ~ 59	38	%	39~72	60	%	1.0 ~ 1.7	1.3	%	-	-	-	
46	平野川分水 路天王田大橋		6.9 ~ 7.4	7.4	7.15	%	14 ~ 51	24	%	16~73	31	%	1.1 ~ 4.7	2.7	%	1.3×10 ⁵ ~ 4.9×10 ⁶	1.6 × 10 ⁶	%	
47	平野川 南弁天橋	E	6.8 ~ 7.3	7.3	7.05	%	14 ~ 64	35	%	25~120	53	%	<0.5 ~ 1.8	0.9	%	4.9×10 ⁵ ~ 9.2×10 ⁶	3.0 × 10 ⁶	%	
48	平野川 城見橋		6.9 ~ 7.3	7.3	7.1	%	9.0 ~ 26	17	%	14~61	28	%	1.0 ~ 4.5	2.4	%	4.9×10 ⁴ ~ 5.4×10 ⁶	1.3 × 10 ⁶	%	

(単位: ppm)

化学的酸素 要求量 [COD]		健康項目															
		シアン [CN]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
最小~最大	平均	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n
15 ~39	23	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
3.9 ~20	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
7.3 ~26	18	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
10 ~29	18	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
10 ~19	13	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
18 ~39	30	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
18 ~52	27	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
13 ~29	19	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
25 ~49	34	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
11 ~22	15	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
28 ~37	32	0.1	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
20 ~37	25	ND	%	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
20 ~38	28	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
12 ~23	19	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%

第4 大阪市内河川水域

1 水域の概要

大阪市内河川は、淀川から毛馬洗堰を通り大川を経て流れる水系及び大阪東部の群小河川を合して京橋で合流する寝屋川水系からなっており、これら諸河川は総じて自己流量に乏しく、大部分が感潮区間でよどみがちであるが、現在はほとんどが下水道整備地域となっている。

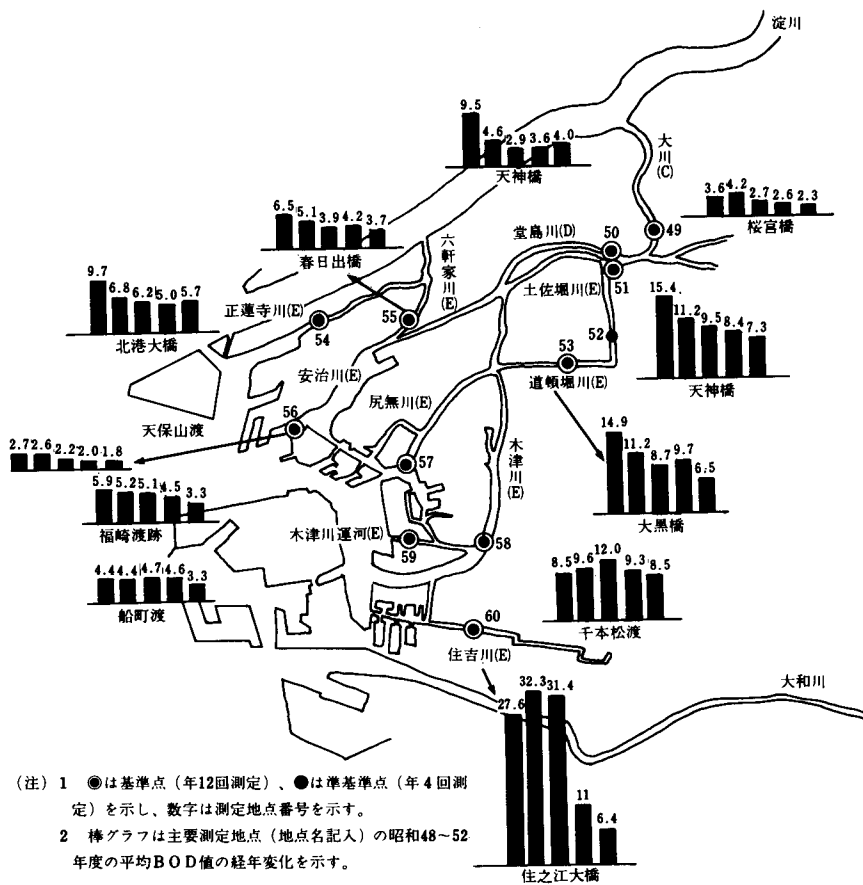
2 水質の状況

大阪市内河川の環境基準の河川類型は、大川がC類型、堂島川がD類型、土佐堀川、道頓堀川、正蓮寺川、六軒家川、安治川、尻無川、木津川、木津川運河及び住吉川がE類型である（図2-2-6）。

大阪市内河川における健康項目については、すべての測定地点で環境基準を下回った。

BODについては、前年度に環境基準を上回っていた木津川、住吉川を含め、11河川すべて環境基準を下回った（表2-2-12）。

図2-2-6 大阪市内河川水域の水質測定地点及びBOD経年変化



(注) 1 ●は基準点(年12回測定)、●は準基準点(年4回測定)を示し、数字は測定地点番号を示す。
 2 棒グラフは主要測定地点(地点名記入)の昭和48~52年度の平均BOD値の経年変化を示す。

表2-2-12 大阪市内河川水質調査結果(昭和52年度)

測定地点		環境 基準 河川 類型	生活環境項目													
			水素イオン 濃度 (pH)		生物化学的 酸素要求量 (BOD)			浮遊物質量 (SS)			溶存酸素量 (DO)			大腸菌群数 (Coli-G) (MPN/100ml)		
			最小~最大	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%
49	大川 桜宮橋	C	6.9 ~ 7.2	%	1.3 ~ 2.8	2.3	%	8~24	14	%	5.8 ~ 11	8.5	%	1.3×10 ⁴ ~ 5.4×10 ⁴	3.7 × 10 ⁴	%
50	堂島川 天神橋	D	7.0 ~ 7.2	%	2.6 ~ 5.6	4.0	%	6~21	15	%	5.6 ~ 12	7.7	%	3.3×10 ⁴ ~ 9.2×10 ⁵	2.8 × 10 ⁵	%
51	土佐堀川 天神橋	E	6.9 ~ 7.3	%	3.8 ~ 10	7.3	%	10~32	18	%	3.0 ~ 8.4	5.8	%	2.3×10 ⁵ ~ 5.4×10 ⁶	9.1 × 10 ⁵	%
52	東横堀川 本町橋		6.8 ~ 7.3	%	2.2 ~ 12	6.1	%	11~37	20	%	2.2 ~ 7.1	4.8	%	4.9×10 ⁴ ~ 9.2×10 ⁶	1.3 × 10 ⁶	%
53	道頓堀川 大黒橋	E	6.8 ~ 7.3	%	2.8 ~ 13	6.5	%	10~35	16	%	1.8 ~ 8.6	3.7	%	1.3×10 ⁵ ~ 3.5×10 ⁶	8.6 × 10 ⁵	%
54	正蓮寺川 北港大橋	E	7.2 ~ 8.0	%	1.9 ~ 12	5.7	%	5~16	10	%	3.2 ~ 8.5	5.8	%	7.9×10 ⁴ ~ 1.6×10 ⁶	8.4 × 10 ⁵	%
55	六軒家川 春日出橋	E	7.2 ~ 8.0	%	1.9 ~ 5.3	3.7	%	10~27	16	%	3.3 ~ 7.6	5.5	%	4.9×10 ⁴ ~ 3.5×10 ⁶	9.0 × 10 ⁵	%
56	安治川 天保山渡	E	7.3 ~ 8.0	%	1.0 ~ 2.4	1.8	%	4~10	7	%	4.2 ~ 8.2	6.1	%	2.3×10 ⁴ ~ 2.4×10 ⁵	6.7 × 10 ⁴	%
57	尻無川 福崎渡跡	E	7.2 ~ 7.9	%	2.3 ~ 4.9	3.3	%	6~13	9	%	2.9 ~ 6.6	4.6	%	4.6×10 ⁴ ~ 1.6×10 ⁶	5.2 × 10 ⁵	%
58	木津川 千本松渡	E	7.1 ~ 7.8	%	4.3 ~ 21	8.5	%	6~18	12	%	2.2 ~ 6.6	3.9	%	3.3×10 ⁵ ~ 1.6×10 ⁷	3.5 × 10 ⁶	%
59	木津川 船町運河渡	E	7.0 ~ 7.8	%	2.2 ~ 5.4	3.3	%	6~25	11	%	3.0 ~ 6.0	4.6	%	4.9×10 ⁴ ~ 2.2×10 ⁶	4.4 × 10 ⁵	%
60	住吉川 住之江大橋	E	6.6 ~ 7.5	%	2.4 ~ 10	6.4	%	5~31	14	%	1.4 ~ 5.4	3.2	%	4.9×10 ⁴ ~ 9.2×10 ⁵	4.0 × 10 ⁵	%

(単位：ppm)

化学的酸素 要求量 [COD]	健康項目																
	平均	シアン [CN]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
		最小~最大	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大
3.4 ~ 5.7	4.4	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
3.9 ~ 8.1	6.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
7.2 ~11	9.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
8.2 ~12	10	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
5.8 ~15	9.6	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
3.5 ~11	6.0	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
3.9 ~ 6.9	5.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.4 ~ 4.8	3.2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
4.0 ~ 5.9	4.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
5.5 ~10	7.0	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0.0006	ppm	◇	◇
3.3 ~ 6.4	4.7	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	<0.0005	%	◇	◇
5.6 ~ 19	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	0.0006	ppm	◇	%

第5 大和川水域

1 水域の概要

淀川とともに大阪の代表的河川である大和川は、奈良盆地の東南に端を発し、奈良県下の諸河川を合して大阪平野に流入し、大和川以南地域の石川、東除川、今井戸川、西除川等の支川を合して大阪湾に注いでいる。

流域市町村は、大阪市、堺市、河内長野市、松原市、富田林市、羽曳野市、藤井寺市、柏原市、美原町、狭山町、河南町、太子町及び千早赤阪村の8市4町1村に及んでいる。

2 水質の状況

大和川本川の環境基準の河川類型は、浅香山より上流がC類型、下流がD類型で、支川の千早川、石川及び西除川上流はB類型、東除川はC類型、西除川下流はD類型である(図2-2-7)。

大和川水域における健康項目については、すべての測定地点で環境基準を下回った。

BODについては、奈良県からの流入の影響を直接受けている国豊橋(平均値15ppm、m/n値12/12)を始め、河内橋(平均値11ppm、m/n値12/12)、浅香新取水口(平均値21ppm、m/n値12/12)、遠里小野橋(平均値21ppm、m/n値12/12)の4地点ともすべて環境基準を上回っており、前年度に比しても悪化している。これは渇水による影響を受けたこと、支川の東除川、今井戸川、西除川等が依然として汚濁されていること等に起因しているものとみられる。特に今井戸川では汚濁が著しく平均BOD値で290ppm、大腸菌群数で 1.4×10^7 MPN/100mlに達している。

石川では、高橋(平均値4.0ppm、m/n値8/12)、石川橋(平均値4.4ppm、m/n値8/12)の2測定地点とも環境基準を上回ったが、支川の千早川(平均値2.8ppm、m/n値2/12)は環境基準を下回った。

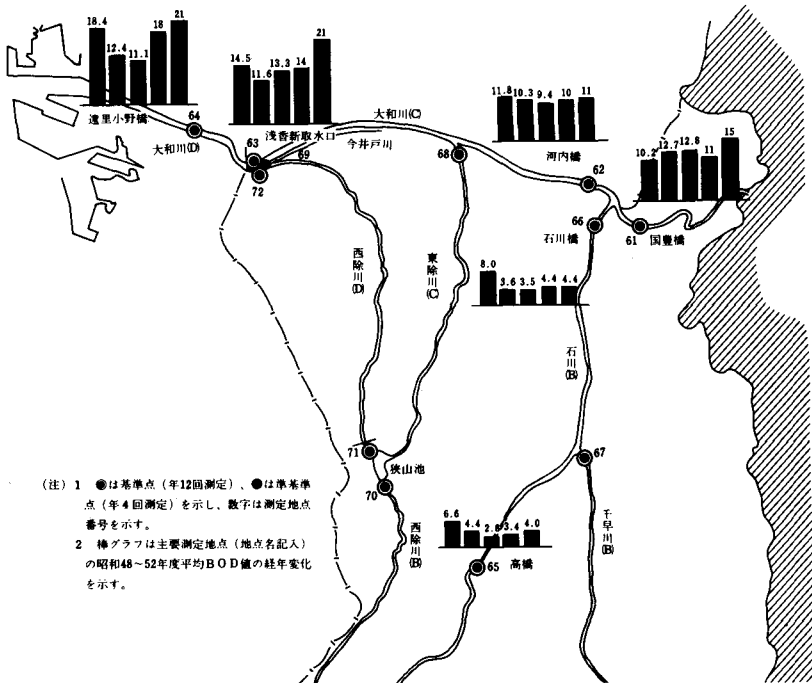
なお、浅香新取水口における水質、流量、汚濁負荷量(水質×流量)を前年度と比較すると、水質測定時において平均流量で $17.3\text{m}^3/\text{秒}$ から $11.3\text{m}^3/\text{秒}$ に減少し、また、BOD汚濁負荷量は $21.5\text{t}/\text{日}$ から $21.2\text{t}/\text{日}$ とほとんど変わらない状況となっていることから、BOD値の上昇は渇水による流量の減少に起因しているものと考えられる(表2-2-13及び表2-2-14)。

表2-2-13 大和川（浅香新取水口）における水質、流量及び汚濁負荷量

区分	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
水質 (BOD ppm)	51	17.2	6.4	10.8	12.8	10.4	15.2	16.0	11.4	18.0	21.6	24.8	18.8	15.3
	52	18.4	11.6	23.3	15.0	33.4	25.0	16.1	21.4	21.1	30.5	31.4	25.1	22.7
流量 (m^3 /秒)	51	19.9	28.0	—	29.0	22.0	11.5	16.5	12.2	16.8	13.8	9.0	11.6	17.3
	52	14.8	12.0	5.7	12.0	5.8	16.8	15.9	12.3	12.2	10.8	9.5	8.1	11.3
汚濁負荷量 (水質×流量) (BOD t/日)	51	29.6	15.5	—	32.1	19.8	15.1	22.8	12.0	26.1	25.8	19.3	18.8	21.5
	52	23.5	12.0	11.5	15.6	16.7	36.3	22.1	22.7	22.2	28.5	25.8	17.6	21.2

- (注) 1 水質、流量は堺市水道局調べによっているため、表2-2-14の浅香新取水口の水質データ（近畿地方建設局調べ）とは異っている。
2 汚濁負荷量の平均値は、加重平均値を用いている。

図2-2-7 大和川水域の水質測定地点及びBOD経年変化



- (注) 1 ●は基準点(年12回測定)、●は基準点(年4回測定)を示し、数字は測定地点番号を示す。
2 棒グラフは主要測定地点(地点名記入)の昭和48~52年度平均BOD値の経年変化を示す。

表2-2-14 大和川水域水質調査結果 (昭和52年度)

測定地点		環境 基準 河川 類型	生 活 環 境 項 目														
			水素イオン 濃 度 [pH]			生物化学的 酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	m _n	最小~最大	平均	m _n	最小~最大	平均	m _n	最小~最大	平均	m _n	最小~最大	平均	m _n
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
61	大和川 豊橋	C	7.2 ~ 7.7	%	8.0 ~ 26	15	%	17~36	24	%	4.8 ~ 9.2	6.6	%	4.9×10 ⁴ ~ 1.1×10 ⁶	3.7 × 10 ⁵	%	
62	大和川 内橋		7.3 ~ 7.8	%	6.5 ~ 15	11	%	6~29	19	%	6.9 ~ 11	8.8	%	4.9×10 ⁴ ~ 4.6×10 ⁵	2.4 × 10 ⁵	%	
63	大和川 浅香新取水口		7.2 ~ 8.3	%	12 ~ 38	21	%	19~44	31	%	3.3 ~ 9.4	6.5	%	7.0×10 ⁴ ~ 5.4×10 ⁶	1.4 × 10 ⁵	%	
64	大和川 遠里小野橋	D	7.2 ~ 8.3	%	13 ~ 39	21	%	13~95	35	%	3.4 ~ 8.3	5.6	%	1.7×10 ⁵ ~ 2.4×10 ⁶	1.2 × 10 ⁴	%	
65	石川橋	B	6.1 ~ 8.1	%	1.3 ~ 11	4.0	%	2~100	17	%	6.9 ~ 11	9.1	%	1.6×10 ⁴ ~ 2.4×10 ⁵	9.3 × 10 ⁴	%	
66	石川橋		7.4 ~ 8.0	%	2.3 ~ 8.3	4.4	%	6~35	18	%	7.8 ~ 12	9.7	%	8.0×10 ³ ~ 3.3×10 ⁵	6.9 × 10 ⁴	%	
67	千早川 石川合流直前	B	5.9 ~ 7.8	%	<0.5 ~ 12	2.8	%	1~130	31	%	6.5 ~ 11	8.8	%	4.9×10 ³ ~ 1.3×10 ⁶	2.0 × 10 ⁵	%	
68	東除川 大和川合流直前	C	4.9 ~ 8.8	%	14 ~ 51	26	%	8~270	52	%	3.8 ~ 7.5	6.0	%	—	—	—	
69	今井戸川 大和川合流直前		6.7 ~ 6.9	%	150 ~ 510	290	%	49~450	180	%	<0.5 ~ 3.3	1.1	%	2.3×10 ⁶ ~ 4.9×10 ⁷	1.4 × 10 ⁷	%	
70	西除川 狭山池合流直前	B	5.9 ~ 8.0	%	1.4 ~ 14	7.1	%	5~290	65	%	5.0 ~ 9.7	8.1	%	2.4×10 ⁴ ~ 7.9×10 ⁵	2.3 × 10 ⁵	%	
71	西除川 狭山池流出端		6.4 ~ 10.7	%	2.0 ~ 12	6.2	%	8~41	20	%	8.3 ~ 17	12	%	5~ 1.3×10 ⁴	3.2 × 10 ³	%	
72	西除川 大和川合流直前	D	7.0 ~ 7.5	%	38 ~ 180	82	%	4~170	75	%	<0.5 ~ 6.9	2.8	%	1.3×10 ⁶ ~ 1.6×10 ⁸	2.0 × 10 ⁷	%	

(単位：ppm)

		健 康 項 目															
化学的酸素 要求量 [COD]		シアン [CN]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
最小~最大	平均	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n
11 ~29	15	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
9.5 ~16	12	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
15 ~26	19	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
14 ~28	20	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	0.0006	%	◇	◇
3.0 ~11	5.6	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	<0.0005	%	◇	◇
4.4 ~8.3	6.2	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.3 ~12	5.2	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
16 ~44	26	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
53 ~250	100	◇	%	◇	%	0.010	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
6.9 ~17	10	◇	%	◇	%	<0.005	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
5.3 ~28	12	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
10 ~47	28	◇	%	◇	%	◇	%	0.09	%	◇	%	◇	%	0.0033	%	◇	%

第6 泉州諸河川水域

1 水域の概要

泉州諸河川水域における河川は、和泉葛城山系に源を発し、直接大阪湾に注ぐ中小の単独河川が多い。河口付近についてみると北部には、堺・泉北臨海工業地帯をひかえ、また、南部には漁港や舟だまりがあり、夏期には二色の浜などの海水浴場が開設されている。

関係市町村は、堺市、高石市、泉大津市、和泉市、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、泉南市、忠岡町、狭山町、熊取町、田尻町、阪南町及び岬町の8市6町である。

2 水質の状況

泉州諸河川水域の環境基準の河川類型は、父鬼川、男里川、金熊寺川、山中川、菟砥川、番川、大川、東川及び西川がA類型、樫井川、近木川、大津川のそれぞれの上流及び牛滝川、松尾川、槇尾川はB類型、また、大津川下流はD類型、石津川、春木川、津田川、見出川、佐野川及び近木川、樫井川の下流がE類型となっている（図2-2-8）。

泉州諸河川水域における健康項目については、内川放水路（古川橋）でカドミウムが2回（0.021ppm、0.011ppm）、鉛が2回（0.14ppm、0.13ppm）、また、内川（豎川橋）でカドミウムが1回（0.012ppm）環境基準を上回った。この原因は、追跡調査によっても明確には握することはできなかったが、引き続き流域の工場に対して強力に指導を行っている。

BODについては、全般的に前年度に比して悪化しており、前年度では環境基準に適合した河川が9河川であったのに比べ、昭和52年度は4河川（父鬼川、山中川、番川、西川）に減少している。これは渇水による影響を強く受けたためとみられる。特に近木川（近木川橋）、見出川（見出橋）、樫井川（樫井大橋）等の水質の悪化が目立っている（表2-2-15）。

特殊項目については、近木川で溶解性鉄が4.56ppm、亜鉛が1.27ppm、見出川で亜鉛が1.69ppmと高い値が検出された。

図 2-2-8 泉州諸河川水域の水質測定地点及び BOD 経年変化

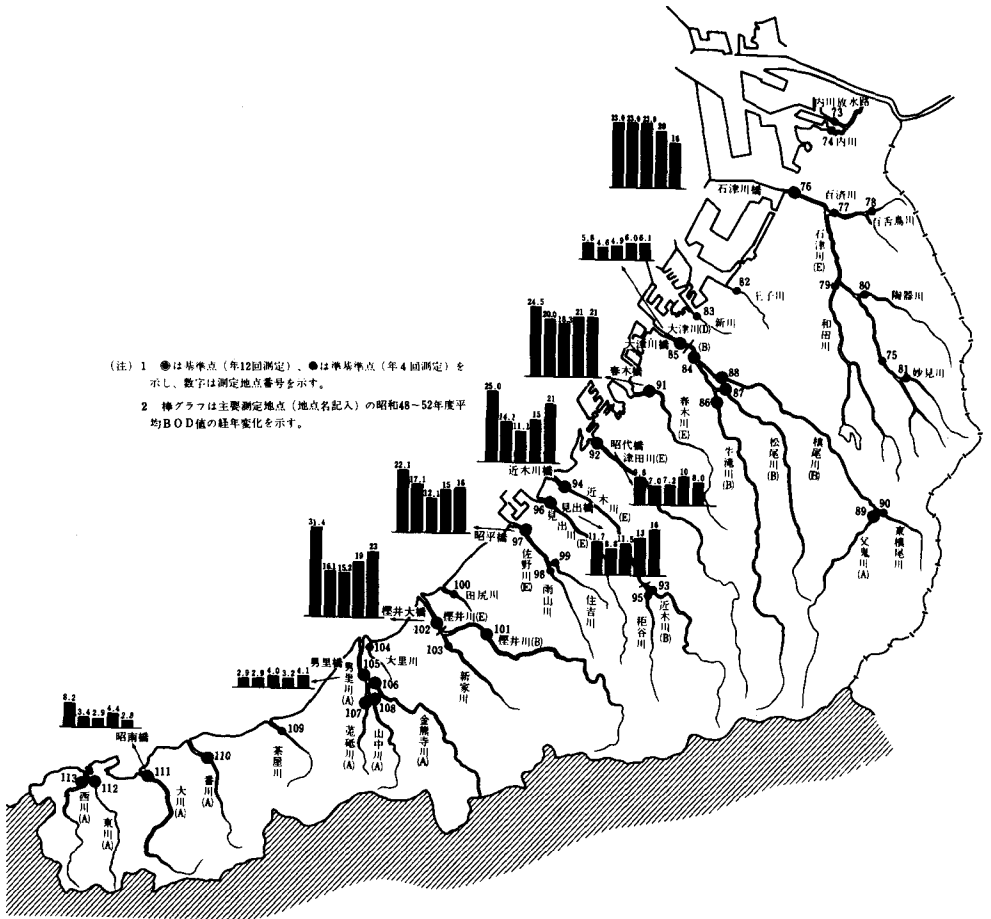


表2-2-15 泉州諸河川水域水質調査結果（昭和52年度）

測定地点		環境 基準 河川 類型	生活環境項目														
			水素イオン濃度 [pH]			生物化学的酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%	最小~最大	平均	%
73	内川放水路 古川橋	E	7.3 ~8.2	13	%	5.7 ~26	13	%	10~31	22	%	<0.5 ~11	5.3	%	-	-	-
74	内整川橋		6.6 ~7.5	20	%	16 ~23	20	%	11~22	17	%	<0.5 ~0.6	0.5	%	-	-	-
75	石津川橋	E	6.5 ~7.6	12	%	9.0 ~14	12	%	13~94	57	%	7.0 ~10	8.5	%	-	-	-
76	石津川橋		6.8 ~7.6	16	%	7.7 ~28	16	%	6~36	23	%	1.0 ~6.9	4.3	%	-	-	-
77	百済川橋 高入橋	E	6.3 ~7.2	29	%	20 ~44	29	%	20~45	32	%	1.3 ~4.7	3.4	%	-	-	-
78	百舌鳥川橋 北条橋		6.2 ~8.3	57	%	25 ~89	57	%	35~73	53	%	2.2 ~4.2	3.1	%	-	-	-
79	和出川橋 小野々井橋		6.5 ~7.7	8.3	%	6.8 ~9.8	8.3	%	9~51	27	%	7.4 ~11	8.6	%	-	-	-
80	陶器川橋 百年橋		6.6 ~7.7	9.8	%	7.9 ~12	9.8	%	17~140	51	%	6.9 ~10	8.0	%	-	-	-
81	妙見川橋 見の井橋		6.7 ~7.7	7.6	%	5.1 ~11	7.6	%	11~36	25	%	6.6 ~8.7	7.4	%	-	-	-
82	王子川橋 王子川橋		6.8 ~7.1	25	%	16 ~45	25	%	26~77	50	%	0.5 ~2.5	1.1	%	-	-	-
83	新河口水門		6.8 ~8.1	40	%	21 ~56	40	%	29~63	39	%	<0.5 ~1.5	1.0	%	-	-	-
84	大津取水口		B	7.2 ~8.0	5.5	%	1.9 ~10	5.5	%	6~76	17	%	7.3 ~11	8.8	%	4.0×10 ³ ~3.5×10 ⁵	1.1 ×10 ⁵
85	大津川橋	D	7.0 ~8.0	6.1	%	2.6 ~11	6.1	%	6~63	16	%	7.5 ~12	9.3	%	-	-	-
86	牛滝川橋	B	6.9 ~9.5	6.5	%	1.0 ~17	6.5	%	6~45	16	%	6.1 ~10	8.1	%	2.0×10 ³ ~3.5×10 ⁵	1.0 ×10 ⁵	%

(単位：ppm)

化学的酸素 要求量 [COD]	健康項目																
	シアン		有機リン		カドミウム		鉛		クロム(6価)		ヒ素		総水銀		P C B		
	[CN]		[Or-P]		[Cd]		[Pb]		[Cr ⁶⁺]		[As]		[T-Hg]		P	C	B
最小~最大	平均	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm
11 ~59	42	ND	%	ND	%	0.021	%	0.14	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
9.0 ~51	29	〃	〃	〃	〃	0.012	%	0.09	%	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
17 ~21	19	〃	〃	〃	〃	<0.005	%	<0.05	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
14 ~29	20	〃	%	〃	%	〃	%	0.07	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%
17 ~21	19	〃	%	〃	%	〃	%	<0.05	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%
19 ~38	26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7.7 ~9.5	8.7	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
8.7 ~21	12	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
9.7 ~11	10	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
17 ~37	25	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	%	〃	〃
31 ~70	53	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6.0 ~12	8.9	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4.1 ~14	9.0	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%
4.6 ~17	8.5	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%	〃	%

測定地点		環境 基準 河川 類型	生活環境項目													
			水素イオン 濃度 (pH)		生物化学的 酸素要求量 (BOD)			浮遊物質量 (SS)			溶存酸素量 (DO)			大腸菌群数 (Coli-G) (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均		
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
87	松尾川 新緑田橋	B	6.9 ~7.6	7.8	2.8 ~19	7.8	6~30	15	5.4 ~10	8.1	2.0×10 ³ ~ 9.2×10 ⁵	1.8 × 10 ⁵				
88	槇尾川 繁和橋	B	6.9 ~7.7	10	2.2 ~19	10	5~53	18	5.4 ~10	7.8	1.4×10 ⁴ ~ 3.5×10 ⁶	1.1 × 10 ⁶				
89	父鬼川 神田橋	A	6.9 ~8.0	1.7	1.0 ~4.1	1.7	1~15	4	7.8 ~14	10	1.3×10 ³ ~ 7.0×10 ⁴	1.4 × 10 ⁴				
90	東槇尾川 東桑橋		7.4 ~8.1	1.3	1.0 ~2.0	1.3	2~11	6	7.8 ~15	10	—	—				
91	春木川 春木橋	E	6.8 ~7.3	21	6.7 ~46	21	16~56	28	1.0 ~7.0	3.6	—	—				
92	津田川 昭代橋	E	6.9 ~7.5	8.0	3.8 ~15	8.0	16~110	43	3.4 ~12	7.9	—	—				
93	近木川 厄除橋	B	7.0 ~8.1	2.6	0.6 ~4.1	2.6	<1~43	5	6.9 ~13	9.4	1.4×10 ³ ~ 1.6×10 ⁵	3.3 × 10 ⁴				
94	近木川 近木橋	E	2.9 ~7.6	21	4.6 ~81	21	18~120	49	3.4 ~9.6	7.1	—	—				
95	鉅谷川 通天橋		7.3 ~7.7	1.5	0.9 ~2.2	1.5	1~12	5	7.3 ~13	9.5	—	—				
96	見出川 見出橋	E	6.2 ~7.6	16	5.5 ~27	16	37~250	87	3.2 ~7.5	6.2	—	—				
97	佐野川 昭平橋	E	6.7 ~8.6	16	8.5 ~32	16	13~56	24	<0.5 ~8.0	4.1	—	—				
98	兩山川 佐野川合流直前		7.4 ~9.7	64	38~95	64	18~64	45	2.4 ~6.7	4.9	—	—				
99	住吉川 向井田橋		6.4 ~7.8	40	14~100	40	14~120	47	0.7 ~6.6	3.8	—	—				
100	田尻川 26号線陸橋		6.9 ~7.9	43	17~79	43	63~93	75	1.9 ~5.6	3.4	—	—				

(単位: ppm)

		健康項目															
化学的酸素要求量 [COD]		シアン [CN]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
最小~最大	平均	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n	最大	m/n
6.1 ~25	13	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
3.8 ~24	13	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.4 ~4.6	2.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.5 ~4.4	3.5	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
15 ~43	23	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
4.9 ~16	11	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.9 ~7.8	3.9	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
7.9 ~71	24	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
2.3 ~4.6	3.6	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
11 ~48	25	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
14 ~34	22	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
14 ~81	45	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
14 ~72	33	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
29 ~66	42	◇	◇	◇	◇	0.007	◇	0.09	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

測定地点		環境 基準 河川 類型	生活環境項目													
			水素イオン濃度 [pH]		生物化学的 酸素要求量 [BOD]			浮遊物質量 [SS]			溶存酸素量 [DO]			大腸菌群数 [Coli-G] (MPN/100ml)		
			最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均	最小~最大	平均		
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
101	櫻井川 免田橋	B	6.9 ~8.0	3.0	1.8 ~5.1	3.0	%	1~16	8	%	6.9 ~11	9.0	%	7.8×10 ² ~ 1.6×10 ⁵	2.4 × 10 ⁴	%
102	櫻井川 櫻井大橋	E	7.1 ~9.3	23	6.7 ~61	23	%	6~53	28	%	1.0 ~9.8	6.8	%	—	—	—
103	新家川 明治小橋		7.4 ~9.2	15	9.2 ~27	15	%	8~170	79	%	6.8 ~9.4	8.1	%	—	—	—
104	大里川 河口水門		6.5 ~7.8	44	18 ~87	44	%	20~78	44	%	3.8 ~7.3	5.5	%	—	—	—
105	男里川 男里川橋	A	6.7 ~8.1	4.1	1.9 ~7.3	4.1	%	4~65	18	%	5.3 ~11	8.4	%	3.5×10 ³ ~ 3.5×10 ⁵	9.0 × 10 ⁴	%
106	金熊寺川 男熊里橋	A	6.9 ~7.6	11	2.4 ~25	11	%	1~24	12	%	0.8 ~8.4	4.6	%	7.0×10 ³ ~ 5.4×10 ⁵	1.3 × 10 ⁵	%
107	菟砥川 西打合橋	A	6.7 ~8.7	2.4	0.8 ~3.5	2.4	%	1~31	7	%	6.6 ~11	8.9	%	1.7×10 ³ ~ 3.5×10 ⁴	1.6 × 10 ⁴	%
108	山中川 東打合橋	A	7.0 ~9.8	1.1	<0.5 ~3.0	1.1	%	1~130	29	%	8.3 ~12	10	%	4.9×10 ² ~ 3.5×10 ⁴	1.1 × 10 ⁴	%
109	茶屋川 新茶屋川橋		7.2 ~7.6	4.1	1.8 ~9.4	4.1	%	4~43	17	%	4.4 ~8.7	7.2	%	—	—	—
110	番田川 身輪橋	A	7.1 ~8.2	1.1	<0.5 ~2.8	1.1	%	2~47	13	%	8.4 ~13	10	%	2.0×10 ² ~ 7.9×10 ³	2.8 × 10 ⁵	%
111	大昭川 南橋	A	7.1 ~9.0	2.8	0.9 ~10	2.8	%	7~56	23	%	7.8 ~13	9.8	%	2 ~ 3.5×10 ⁴	9.0 × 10 ³	%
112	東一軒屋川 軒屋橋	A	7.0 ~8.1	2.7	1.0 ~6.5	2.7	%	4~42	11	%	6.7 ~13	10	%	2.3×10 ³ ~ 3.5×10 ⁴	1.3 × 10 ⁴	%
113	西二うや川 うや橋	A	6.9 ~9.0	1.2	0.5 ~3.0	1.2	%	3~110	18	%	7.6 ~14	10	%	7.8×10 ² ~ 1.7×10 ⁴	5.7 × 10 ³	%

(単位: ppm)

化学的酸素 要求量 [COD]		健 康 項 目															
		シ ア ン [C N]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ 素 [As]		総 水 銀 [T-Hg]		P C B	
最小~最大	平均	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$	最 大	$\frac{m}{n}$
2.5 ~ 8.1	5.7	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
9.3 ~74	33	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
19 ~29	25	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
29 ~100	55	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.9 ~ 7.5	5.5	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
3.9 ~20	11	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%
1.7 ~ 6.3	4.0	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.5 ~ 5.2	3.3	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
4.1 ~ 7.6	6.1	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
1.5 ~ 4.6	2.8	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
2.9 ~12	5.0	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	◇
2.2 ~ 7.3	4.9	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	%	◇	◇
1.7 ~ 5.8	3.3	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

表2-2-16 河川的环境管理計画に定める特殊項目についての調査結果 (昭和52年度)

(単位: ppm)

測定地点	ノルマル ヘキサゴン 抽出物質	フェノ ール類	銅	亜鉛	鉄 (溶解性)	マンガン (溶解性)	クロム	弗素	陰イオン 活性剤	総窒素	アンモニ ア性窒素	亜硝酸 性窒素	硝酸 性窒素	総リン	リン酸 性リン	BHC	アンチ モン	
淀川	1 枚方大橋左岸	N D	0.031	0.009	0.018	0.12	0.02	N D	0.2	2.1	0.63	0.06	0.77	0.26	—	N D	N D	
	2 枚方大橋流心	N D	0.025	0.008	0.033	0.11	0.04	N D	0.2	2.2	0.69	0.06	0.70	0.21	—	N D	N D	
	3 枚方大橋右岸	N D	0.024	0.008	0.028	0.14	0.07	N D	0.2	2.6	1.11	0.08	0.79	0.26	—	N D	N D	
	4 鳥飼大橋左岸	N D	0.023	0.010	0.028	0.24	0.08	N D	0.2	3.0	1.04	0.08	0.68	0.22	—	N D	N D	
	5 鳥飼大橋流心	N D	0.016	0.007	0.026	0.13	0.07	N D	0.2	2.6	1.16	0.08	0.70	0.24	—	N D	N D	
	6 鳥飼大橋右岸	N D	0.016	0.008	0.026	0.14	0.07	N D	0.2	2.8	1.21	0.09	0.87	0.25	—	N D	N D	
	7 国鉄赤川鉄橋	N D	N D	0.005	0.021	0.08	0.03	N D	0.2	2.1	0.64	0.07	0.78	0.21	—	—	N D	
猪名川	8 佐法大橋	N D	N D	0.005	0.034	N D	0.02	N D	0.7	2.7	0.26	0.11	0.41	0.26	—	—	N D	
	15 銀橋	N D	N D	0.007	0.017	0.16	0.02	N D	0.2	1.8	0.34	0.04	1.02	0.25	—	N D	N D	
	16 軍行橋	N D	N D	N D	0.008	0.17	0.12	N D	0.3	2.2	0.44	N D	0.88	0.42	—	N D	N D	
	17 利倉橋	1.0	0.013	0.011	0.035	0.21	0.24	0.03	0.3	5	14.5	10.26	0.12	0.80	2.47	—	N D	N D
	22 桑原橋	0.6	N D	<0.05	0.06	N D	N D	N D	0.04	1.6	0.57	0.06	0.48	0.16	0.10	—	—	
	23 千歳橋	N D	0.007	<0.05	0.13	N D	N D	N D	0.1	2.7	0.48	0.15	1.34	0.36	0.10	—	—	
	24 宮島橋	N D	N D	<0.05	0.03	N D	N D	N D	0.2	2.8	0.47	0.05	1.62	0.30	0.26	—	—	
安威川	25 新京阪橋	1.3	0.006	0.05	0.04	N D	0.08	N D	0.1	9.1	5.46	0.17	2.44	1.44	0.30	—	—	
	31 新三国橋	0.7	0.015	<0.05	0.09	0.11	0.10	N D	1.3	6.5	3.17	0.12	1.96	0.80	0.34	—	—	
	32 辰巳橋	0.9	0.006	<0.05	0.07	0.10	0.08	N D	1.3	6.5	3.44	0.23	1.62	0.78	0.24	—	—	
	34 千船橋	0.8	0.008	<0.05	0.07	0.12	0.13	N D	3.6	5.8	2.98	0.23	1.66	0.74	0.11	—	—	

36	萱島橋	1.2	0.007	<0.05	0.05	0.24	0.18	N D	N D	0.23	6.2	1.47	0.05	3.87	0.77	0.11	—	—
37	住道大橋	3.4	0.020	<0.05	0.06	0.17	0.16	N D	N D	2.2	12.0	6.38	1.97	2.34	1.28	0.40	—	—
38	今津橋	2.0	0.026	<0.05	0.24	0.18	0.20	N D	0.2	1.2	13.4	8.29	0.95	2.72	1.96	1.48	N D	N D
39	京橋	1.3	0.014	<0.05	0.10	0.15	0.09	N D	N D	0.23	10.4	5.78	0.27	2.56	1.75	1.28	—	—
41	大東新橋	3.1	0.020	<0.05	0.62	0.18	0.59	N D	0.1	2.0	18.4	12.9	0.20	2.91	2.20	1.48	—	—
49	(大川) 桜高橋	<1	<0.01	0.02	0.02	0.10	<0.1	N D	0.2	0.17	2.2	—	—	—	0.18	—	—	—
50	(萱島川) 天神橋	<1	<0.01	0.02	0.04	0.13	<0.1	N D	0.2	0.28	3.9	—	—	—	0.42	—	N D	N D
51	(土佐堀川) 天神橋	<1	<0.01	0.04	0.08	0.13	0.1	N D	0.2	0.45	7.9	—	—	—	0.85	—	—	—
53	(蓮根川) 大黒橋	<1	<0.01	0.03	0.05	0.13	0.1	N D	0.3	0.45	6.9	—	—	—	0.89	—	—	—
54	(正遷寺川) 北港大橋	3	<0.01	0.02	0.04	0.09	0.1	0.03	0.9	0.23	3.4	—	—	—	0.44	—	N D	N D
55	(六軒家川) 養日出橋	2	<0.01	0.03	0.06	N D	<0.1	N D	0.7	0.20	3.4	—	—	—	0.47	—	—	—
56	(安治川) 天保山渡	<1	<0.01	0.01	0.04	N D	<0.1	N D	0.8	0.15	2.5	—	—	—	0.28	—	—	—
57	(尻無川) 福崎渡跡	<1	<0.01	0.01	0.06	0.09	<0.1	N D	0.8	0.24	3.5	—	—	—	0.47	—	—	—
58	(木津川) 千本松渡	1	<0.01	0.03	0.07	0.09	0.1	N D	0.7	0.36	5.8	—	—	—	0.76	—	N D	N D
59	(本津山渡河) 船町渡	1	<0.01	0.03	0.10	0.09	<0.1	N D	0.9	0.28	4.2	—	—	—	0.47	—	—	—
60	(住吉川) 住芝江大橋	<1	0.01	0.02	0.40	1.29	0.5	0.04	0.4	0.10	10.3	—	—	—	0.96	—	—	—
61	国豊橋	N D	N D	0.012	0.027	0.19	0.03	0.05	0.3	0.4	5.6	2.88	0.32	1.82	0.73	—	—	—
62	河内橋	N D	0.007	0.009	0.032	0.16	0.03	N D	0.3	0.3	6.2	2.17	0.30	1.79	0.80	—	N D	—
63	淡香新取水口	N D	0.015	0.043	0.108	0.69	0.12	0.03	0.3	0.8	10.2	3.90	0.06	1.65	1.76	—	N D	—
64	遠里小野橋	N D	0.012	0.057	0.290	0.53	0.12	0.04	0.1	1.2	11.3	4.36	0.05	1.53	1.99	—	—	—

(単位：ppm)

測定地点	ノルマルヘキサゴン抽出物質	フェノール類	銅	亜鉛	鉄(溶解性)	マンガン(溶解性)	クロム	弗業	陰イオン活性剤	総窒素	アンモニウム性窒素	亜硝酸性窒素	硝酸性窒素	総リン	リン酸性リン	BHC	アンチモン
石川																	
65 高橋	0.5	0.005	<0.05	0.10	N D	N D	N D	N D	0.11	3.6	0.17	0.09	2.70	0.41	0.13	N D	N D
66 石川橋	0.5	N D	0.007	0.054	0.10	0.02	0.1	0.2	0.2	4.0	0.50	0.05	2.20	0.43	—	—	—
76 (石津川) 石津川橋	9.0	0.02	0.01	0.14	0.42	0.21	N D	N D	0.05	—	7.09	0.18	0.59	1.49	1.11	—	N D
85 (大津川) 大津川橋	1.7	N D	0.014	0.036	0.23	0.15	N D	0.2	0.73	3.1	1.12	0.11	1.16	0.48	0.35	N D	N D
91 (善木川) 善木川橋	9.8	N D	0.026	0.261	0.41	0.13	N D	N D	5.75	6.2	3.52	0.07	0.24	1.77	1.20	—	—
92 昭代橋	3.0	N D	0.029	0.105	0.23	0.24	N D	0.1	2.01	3.9	1.64	0.12	1.12	0.80	0.47	—	—
94 (近木川) 近木川橋	2.6	N D	0.017	1.27	4.56	0.30	N D	N D	1.29	4.9	1.09	0.12	1.24	1.20	0.59	N D	N D
96 見出橋	3.0	N D	0.027	1.69	0.41	0.20	N D	0.4	1.21	32.7	27.63	0.22	1.58	2.55	1.87	—	—
97 昭草橋	6.3	N D	0.011	0.043	0.70	0.18	N D	0.2	1.76	5.7	2.91	0.06	0.25	1.19	0.79	—	—
102 (樽井川) 樽井天橋	5.3	0.004	0.023	0.036	N D	0.06	N D	N D	1.34	16.8	11.89	0.41	1.21	2.32	1.84	N D	N D
105 (男里川) 男里川橋	N D	N D	N D	0.359	0.15	0.04	N D	N D	0.13	3.0	1.28	0.05	1.13	0.58	0.44	—	—
111 (大川) 昭南橋	N D	N D	N D	0.016	0.04	N D	N D	0.1	0.17	0.9	0.21	<0.04	0.35	0.13	0.05	—	—

(注) 1 特殊項目の測定は原則として年2回(うち窒素、リンについては年4回)実施している。

2 猪名川の銀橋、軍行橋、利倉橋の鉄、マンガンの項は、全鉄、全マンガンである。

3 各項目のNDは次のとおりである(単位：ppm)。

- ①ノルマルヘキサゴン抽出物質 0.5未満
- ②フェノール類 0.005未満
- ③銅 0.005未満
- ④鉄(溶解性) 0.08未満
- ⑤マンガン(溶解性) 0.01未満
- ⑥クロム 0.03未満
- ⑦弗業 0.1未満
- ⑧陰イオン活性剤 0.01未満
- ⑨亜硝酸性窒素 0.04未満
- ⑩アンチモン 0.05未満
- ⑪BHC 0.01未満

第3節 大阪湾の汚濁状況

大阪湾の水質及び底質の状況については、昭和47年から継続して15測定地点において水質調査を実施し、併せて9測定地点で底質調査を実施してきた（図2-2-9）。

第1 水質汚濁の状況

健康項目については、すべての測定地点で環境基準を下回った。

生活環境項目については、海域の代表的な汚濁指標である化学的酸素要求量（COD）の各海域別の平均値は、A海域2.6ppm、B海域3.0ppm、C海域（港内3地点を除く）3.4ppmとなっており、昭和50年度以降徐々に好転し、また、類型別に環境基準値を超えた検体数（m）の調査対象検体数（n）に対する割合でみても、前年度に比してA海域では80.6%から48.6%に、B海域では61.1%から36.1%に、全海域では51.3%から28.9%に改善されたほか、透明度もよくなっており、大阪湾の水質については全般的に好転しているものとみられる（表2-2-17、表2-2-18、図2-2-10及び図2-2-11）。

CODについて経月変化をみると、7月を中心とした夏期において高くなる傾向を示している。これは同時期にDO、pH値も高くなっていること、また、プランクトン等を除去した場合にはCOD値が低くなることなどからみて、夏季における植物性プランクトンの増殖が著しくCOD値に影響しているものと推測される（図2-2-12）。

特殊項目の測定結果は表2-2-19のとおりであるが、富栄養化の要因物質とされている窒素、リンの平均値をみると、A海域（総窒素（T-N）0.48ppm、総リン（T-P）0.06ppm）、B海域（T-N0.83ppm、T-P0.10ppm）、C海域（T-N1.20ppm、T-P0.14ppm）の全海域とも前年度に比して大きな変化はみられない。

なお、大阪湾における赤潮の発生は、昭和52年には34件が確認され、年間を通じてその発生がみられるが、前年の発生確認件数54件に比して減少している。プランクトンの種類としては、スケルトネマ（珪藻類）やプロロセントラム（鞭毛類）が多くみられた（表2-2-20）。

第2 底質の状況

大阪湾の底質調査結果をみると、経年的にはいずれの項目についても著しい変化は

認められなかった。

底質の暫定除去基準値が定められている総水銀及びPCBについては、総水銀が最高2.02ppm、PCBが最高3.90ppm検出されたが、いずれも暫定除去基準値に比して低濃度であった(表2-2-21)。

図2-2-9 大阪湾の測定地点図

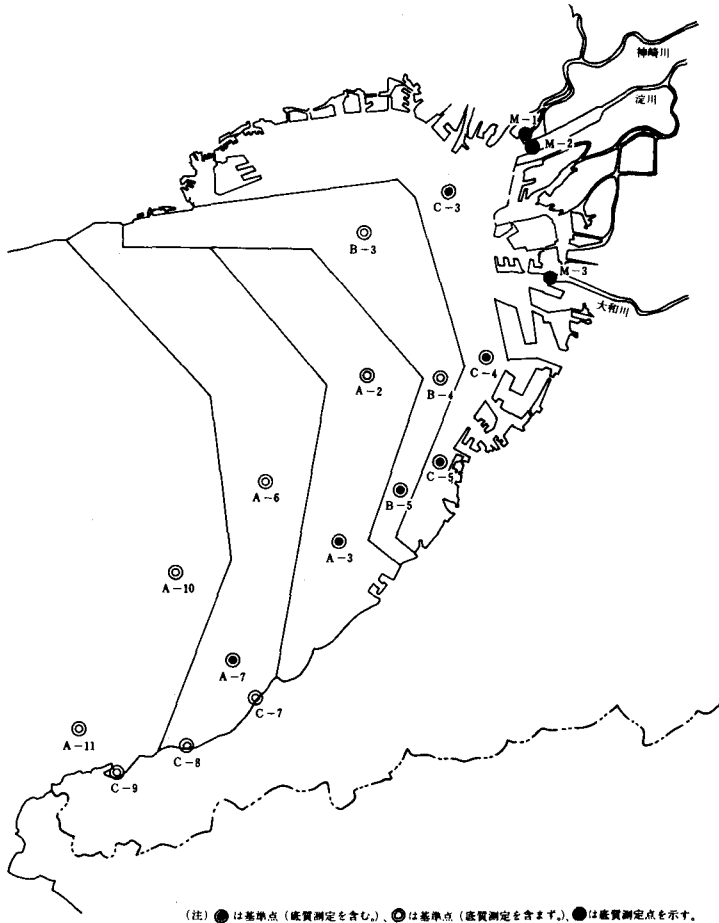


表2-2-17 大阪湾の化学的酸素要求量(COD)の環境基準値を超えた割合

年度	昭和48			昭和49			昭和50			昭和51			昭和52		
	調査対象 検体数 (n)	環境基準 を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %	調査対象 検体数 (n)	環境基準 を超えた 検体数 (m)	割合 (m/n) %
類型															
A	72	55	76.4	72	43	59.7	72	57	79.2	72	58	80.6	72	35	48.6
B	36	30	83.3	36	12	33.3	36	23	63.9	36	22	61.1	36	13	36.1
C	48	6	12.5	48	2	4.2	48	5	10.4	48	0	0.0	72	4	5.6
合計	156	91	58.3	156	57	36.5	156	85	54.5	156	80	51.3	180	52	28.9

表2-2-18 大阪湾水質調査結果 (昭和52年度)

測定地点		環境 基準 海域	生 活 環 境 項 目														
			水素イオン 濃度 (pH)			化 学 的 酸 素 要 求 量 (C O D)			溶 存 酸 素 量 (D O)		大腸菌群数 (Coli-G) (MPN/100ml)			ノルマルヘキサ ン抽出物質 (Oil)			
			最小~最大	平均	標準偏差	最小~最大	平均	標準偏差	最小~最大	平均	標準偏差	最小~最大	平均	標準偏差	最小~最大	平均	標準偏差
			%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
C-3	E 135°23'15" N 34°37'46"	C	7.9 ~8.5		1.8 ~4.9	3.3		4.9 ~9.8	7.2		—	—	—	—	—	—	
C-4	E 135°23'42" N 34°33'30"	C	8.0 ~8.8		1.0 ~12	3.7		4.9 ~15	9.9		—	—	—	—	—	—	
C-5	E 135°21'48" N 34°29'30"	C	8.1 ~8.8		1.2 ~8.5	3.3		6.6 ~15	10		—	—	—	—	—	—	
B-3	E 135°21'06" N 34°35'00"	B	8.0 ~8.6		1.2 ~4.5	2.7		5.4 ~10	8.7		—	—	—	ND ~ ND	ND	%	
B-4	E 135°21'18" N 34°31'36"	B	8.1 ~8.9		1.4 ~12	3.5		7.7 ~20	11		—	—	—	ND ~ ND	ND	%	
B-5	E 135°19'00" N 34°27'48"	B	8.1 ~8.8		1.4 ~5.1	2.8		7.5 ~15	10		—	—	—	ND ~ ND	ND	%	
A-2	E 135°18'24" N 34°31'42"	A	8.1 ~8.7		1.0 ~8.0	2.9		7.1 ~13	9.6		8.4×10 ² ~ 4.4×10 ²	2.7 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
A-3	E 135°17'24" N 34°25'48"	A	8.1 ~9.2		1.1 ~11	3.0		7.1 ~24	11		1.1×10 ² ~ 5.2×10 ²	3.2 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
A-6	E 135°14'30" N 34°28'18"	A	8.2 ~8.8		0.7 ~6.4	2.5		6.8 ~12	9.4		1.1×10 ² ~ 4.5×10 ²	2.7 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
A-7	E 135°13'00" N 34°22'24"	A	8.2 ~9.0		1.0 ~14	3.1		6.5 ~20	10		7.9×10 ² ~ 6.4×10 ²	3.4 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
A-10	E 135°10'30" N 34°25'24"	A	8.2 ~8.8		0.7 ~5.3	2.2		6.7 ~13	9.6		1.1×10 ² ~ 5.2×10 ²	3.0 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
A-11	E 135°06'48" N 34°20'18"	A	8.2 ~8.6		0.6 ~5.6	2.0		5.8 ~10	8.2		3.4×10 ² ~ 6.2×10 ²	2.8 × 10 ²	%	ND ~ ND	ND	%	
C-7	尾崎港内	C	8.0 ~8.7		1.2 ~63	2.1		5.6 ~20	9.0		—	—	—	—	—	—	
C-8	淡輪港内	C	8.1 ~8.6		0.6 ~5.7	2.5		4.7 ~18	9.3		—	—	—	—	—	—	
C-9	深日港内	C	8.1 ~8.6		0.5 ~9.9	2.4		4.6 ~12	7.5		—	—	—	—	—	—	

(単位：ppm)

健康項目																	
シアン [CN]		アルキル水銀 [R-Hg]		有機リン [Or-P]		カドミウム [Cd]		鉛 [Pb]		クロム(6価) [Cr ⁶⁺]		ヒ素 [As]		総水銀 [T-Hg]		P C B	
最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm	最大	ppm
ND	%	ND	%	ND	%	<0.005	%	<0.05	%	<0.02	%	<0.02	%	<0.0005	%	ND	%
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇
◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇	◇

図2-2-10 大阪湾のCOD経年変化（年度平均値）

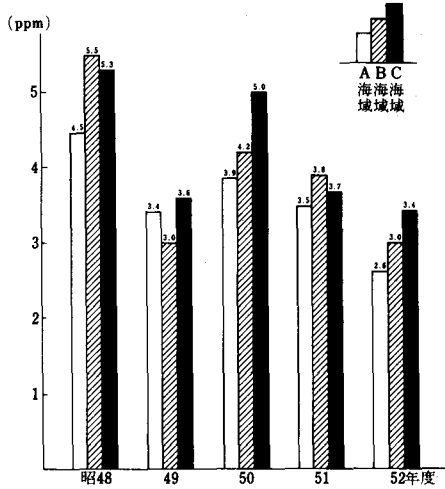


図2-2-11

大阪湾の透明度経年変化（年度平均値）

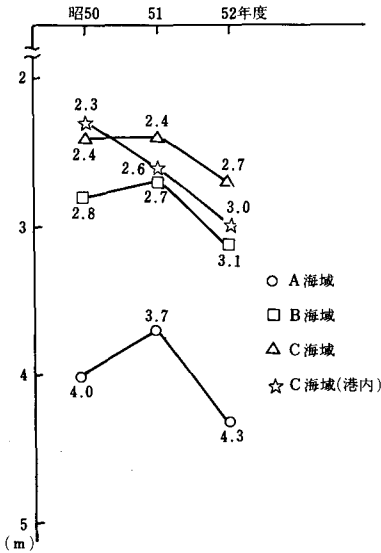
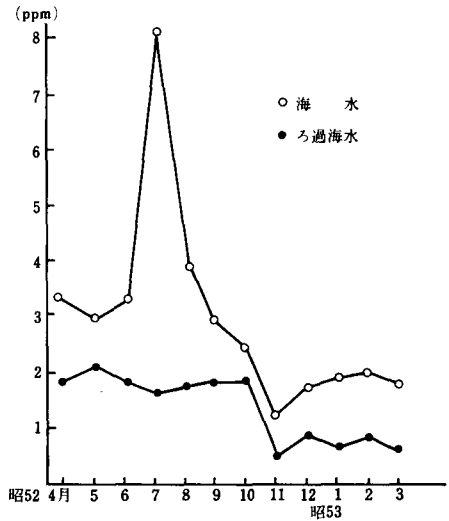


図2-2-12

大阪湾のCOD経月変化（昭和52年度）（港内3地点を除く12地点の平均）



（注）ろ過海水とは、海水を1μのグラスフィルターでろ過し、プランクトン等の固形物を除去したものである。

表2-2-19 大阪湾の環境管理計画に定める特殊項目についての調査結果(昭和52年度)

(単位: ppm)

測定地点	フェノール類	銅	亜鉛	鉄 〔溶解性〕	マンガ ン 〔溶解性〕	クロム	弗素	陰イオン 活性種	総窒素	アンモニ ア性窒素	亜硝酸性 窒素	硝酸性 窒素	総リン	リン酸性 リン
C-3 E 135°23'15" N 34°37'46"	N D	N D	0.019	0.40	0.08	N D	0.9	0.06	1.95	0.98	0.04	0.17	0.22	0.13
C-4 E 135°23'42" N 34°33'30"	N D	N D	0.012	0.14	0.01	N D	0.9	0.01	1.04	0.42	N D	0.12	0.11	0.05
C-5 E 135°21'48" N 34°29'30"	N D	N D	0.012	0.28	0.01	N D	0.9	0.02	0.62	0.16	N D	0.09	0.09	0.04
B-3 E 135°21'06" N 34°35'00"	N D	N D	0.10	0.12	0.02	N D	0.9	0.01	1.04	0.36	N D	0.15	0.08	0.03
B-4 E 135°21'18" N 34°31'36"	N D	N D	0.013	0.09	0.01	N D	1.0	0.05	0.69	0.26	N D	0.14	0.13	0.06
B-5 E 135°19'00" N 34°27'48"	N D	N D	0.010	0.11	N D	N D	0.9	0.02	0.75	0.16	N D	0.11	0.10	0.05
A-2 E 135°18'24" N 34°31'42"	N D	N D	0.015	0.33	0.03	N D	0.9	N D	0.73	0.18	N D	0.24	0.06	0.02
A-3 E 135°17'24" N 34°25'48"	N D	N D	0.011	0.09	N D	N D	1.0	0.04	0.55	0.06	N D	0.08	0.09	0.03
A-6 E 135°14'30" N 34°28'18"	N D	N D	0.013	0.35	0.03	N D	0.9	0.01	0.54	0.10	N D	0.11	0.06	0.02
A-7 E 135°13'00" N 34°22'24"	N D	N D	0.009	N D	N D	N D	0.9	0.03	0.29	0.04	N D	0.06	0.06	0.01
A-10 E 135°10'30" N 34°25'24"	N D	N D	0.011	0.10	N D	N D	1.0	0.01	0.47	0.03	N D	0.07	0.05	0.01
A-11 E 135°06'48" N 34°20'18"	N D	N D	0.013	0.30	0.01	N D	1.0	N D	0.30	0.03	N D	0.09	0.03	0.01
C-7 尾崎港内	N D	N D	0.011	N D	0.01	N D	0.9	0.02	0.61	0.04	N D	0.09	0.08	0.02
C-8 淡輪港内	N D	N D	0.006	0.27	0.01	N D	0.9	N D	0.38	0.06	N D	0.07	0.05	0.02
C-9 深日港内	N D	N D	0.016	0.12	0.01	N D	0.9	0.01	0.39	0.09	N D	0.11	0.06	0.03

(注) 測定値はいずれも8月及び2月における測定値の平均値である。

